

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

※1：平成29年度の意見・課題への取り組み(年度末点検)をもとに、平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組みの進め方を記述し、2019年4月自己点検委員会で確認した。

また、第1回学校関係者評価委員会に報告した。

※2：中間点検は第2回学校関係者評価委員会に報告した。

※3：年度末点検は学校関係者評価委員に報告した。

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
重点目標	2. 重点目標と達成するための計画・方法 (1)TPCの育成と強化	○第一の基本方針である、TPC*の育成と強化については、各学科の特性に応じたさまざまな取組が工夫されて行われており、学校全体として着実に成果を上げている。 ○教科指導におけるアクティブラーニングの手法の導入は、年々着実に前進が見られるが、入学時オリエンテーションやマナー指導・実習・学校行事などの機会を活用した授業外の指導にさらなる工夫が求められていることから、教務委員会や学生委員会を中心とした取り組みに引き続き期待したい。	継続	校長	■授業外でのTPCの指導については、学校行事や日常的なマナー指導の場なども活用し、引き続き教務委員会や学生委員会を中心に具体的な取り組みを推進する。	■朝の挨拶運動への学生の参加、学生中心の学園祭の運営など、昨年度来の取り組みを、修正を加えつつ継続している。	■教務委員会や学生委員会が中心となり、適宜修正を加えながらの地道な取り組みによって、徐々に成果が出始めている。
		*TPC…Think(考える力)、Positive(積極性)、Communication(対話力)。本校では「社会人としての総合力」がこの3つの要素から成ると捉えている。	継続	教務委員会	■授業公開の機会等を利用して、アクティブラーニング型授業の手法に取り組んでいる授業の参観を推奨し、当該手法が有効であり、かつ可能な教科から徐々に導入の推進を図る。	■事前に配信する公開授業一覧に「アクティブラーニング導入」の有無を問う欄を設け、意識を高める工夫をした。アクティブラーニングに取り組んでいる他教員の授業の参観を推進し、学校全体での拡大につながるよう試みた。	■2020年度AO入試による入学者及び看護科の公募推薦入試合格者を対象としたスクーリングを3月に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。内容は全学科共通で「友達作りの機会」としての第Ⅰ部と、各学科毎に「学習への導入」としてアクティブラーニングを取り入れた授業体験とレポート作成の第Ⅱ部の二部構成であり、アクティブラーニング型授業を体験する最初の機会となる予定であった。
			継続	学生委員会	■学生生活ガイドに記載の「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー」および「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー集」を使用して、各担任から4月のオリエンテーションの際に指導してもらう。 ■体育祭と学園祭では、学生に役割と可能な部分の裁量権を与え、主体的に動き、創意工夫ができるようにする。	■学生生活ガイドに記載の「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー」および「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー集」を使用して、各担任から4月のオリエンテーションの際に指導してもらった。 ■体育祭では、特に本部の学生には主体的に動けるように、役割を与えたことにより、学生からの意見により実施方法を決定したり、役割を交代したり臨機応変に対応できた。学園祭では、委員会の学生の発案により看板を作成したり、料理サークルと手話サークルは日頃の練習の成果を発表したり、各クラスで趣向を凝らした模擬店を開いた。	■学生生活ガイドに記載の「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー」および「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー集」を使用して、各担任から4月のオリエンテーションの際に指導してもらった。 ■体育祭では、特に本部の学生には主体的に動けるように、役割を与えたことにより、学生からの意見により実施方法を決定したり、役割を交代したり臨機応変に対応できた。学園祭では、委員会の学生の発案により看板を作成したり、料理サークルと手話サークルは日頃の練習の成果を発表したり、各クラスで趣向を凝らした模擬店を開いた。
(2)退学防止		○入試区分や入学動機の強弱、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、記録の整理、分析をしっかりと行い、情報共有の仕組みを積極的、効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい。 ○表れた兆候への早めの対応、指導が大切であることから、事前の兆候を掴むための積極的なコミュニケーションの工夫を進めてほしい。 ○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると思われることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。 ○重点目標として取り上げてきた退学防止への試みが実を結び、退学者が減った。今後もさまざまな面で学生をサポートして、退学者をゼロに近づけるようにしていただきたい。(30年度総評)	継続・新規	校長	■年度初めに数値目標を示した上で、記録の整理・分析と情報共有をしっかりと行い、引き続き退学防止のための活動を推進する。また、一部の学科で試行して成果を挙げた方法を、他学科にも伝え、防げる退学は極力防ぐ。	■「退学防止調査票」「退学届・学籍異動の記録」を活用した事例研究を、引き続き進めている。	■学生委員会を中心に、「退学防止調査票」「退学届・学籍異動の記録」を活用した事例研究を継続し、学科長会で報告して共有している。また新たな試みとして、学生委員会と1年生の担任で、2月下旬に退学防止の意見交換会を実施した。

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
		○平成30年度生に行ったAO入試による入学予定者への入学前指導プログラムの効果に引き続き期待している。	継続	校長	■2019年度生については、AO入試に加え、看護科の公募推薦による入学予定者にも入学前オリエンテーションの対象を広げた。今後も、対象となる入学予定者の範囲をさらに拡大して実施することを検討する。	■2019年度のAO入試による入学者から退学者が出ている。入学前オリエンテーションには、退学防止のための一定の効果が認められるものの、入学後のフォローも大切である。	■2019年度のAO入試による入学者から退学者が出ており、理由を精査したい。3月に、AO入試と看護科の公募推薦による次年度入学予定者を対象に、入学前オリエンテーションの実施を予定していたが、中止とした。
			継続	字幕制作・速記者養成科	■AO入試を実施していないため、該当しない。		
			継続	医療秘書科	■スクーリングの場を活用し、入学予定者間、教員や上級生との交流を促す。また、入学後の学校生活に対する不安を解消するとともに、学習への興味喚起につなげる。	■AO入試による入学者の学校生活への導入は、概ね良好である。 ■学科が担当するスクーリングIIについては、昨年度の内容をベースにブラッシュアップを検討している。	■進級後早い段階での退学事例も見られるため、hyper-QUIによる検証(学習意識、進路意識、退学傾向)や担任の面談結果を踏まえ、引き続き経過を追っていく予定である。 ■2019年度の第3回課題(スクーリング)は医療分野への興味、意識を高める授業体験を実施した。参加者のレポートから概ね好評と感じられたため、これをベースに3月実施の次年度生スクーリングに向け準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった。2021年度入学生に向け、生かしていきたいと考える。
			継続	医療マネジメント科	■AO入試課題である作文等により、入学動機や卒業後の展望について確認をする。 ■入学前指導プログラムであるスクーリングは成果が出ているので、改良を加えながら引き続き実施する。	■2019年度生に対して実施した入学前指導プログラムの効果について、hyper-QUI等により確認中である。 ■今後、必要に応じて改良を加え、引き続き実施する予定である。 ■現時点において1年生の退学者数は、前年度に比べて減少している。	■入学前指導プログラムの効果、hyper-QUIの活用による個別指導等により、AO入試による入学者の動向は比較的安定しており、1年生の退学者数・退学率は前年度に比べて減少した。 ■AO入学者についての課題が無くなったわけではないので、入学前指導プログラムについては、今後とも改良を加えながら実施する予定である。 ■hyper-QUIは、AO入学者を中心としつつ他の学生達の指導にも活用している。
			継続	診療情報管理専攻科	■該当しない。		
			継続	医師事務技術専攻科	■該当しない。		
			継続	くすり・調剤事務科	■効果は今後検証していく。	■後期末の結果で効果を検証する。	■2019年度のAO入試入学者で、後期は退学者がいなかった。来年度は、AO入試入学前指導プログラムだけで効果を求めるのではなく、AO入試課題作文の内容なども注意深く吟味しながら、入学後もAO入試入学者には特に丁寧に対応することで、それらのトータル効果を検証する。
			継続	介護福祉科	■今後、介護事業所においても外国人介護職の増加が見込まれるため、在学中から、日本人学生と留学生がお互いが尊重し合い、関わりが持てるよう、円滑なコミュニケーション技術の構築を図る。 ■スクーリングのプログラムの検証をし、今後も介護教育への導入へと繋げられるよう内容の検討をする。 ■入学前とのミスマッチがないよう、オープンキャンパスでは丁寧な学科説明をし、入学後は適宜、面談等を実施し状況を把握する。	■オープンキャンパス等では、入学後にミスマッチが生じないよう、個々の学生に合った説明に取り組んでいる。 ■留学生への説明にも、介護の仕事について理解してもらえるよう体験も織り込みながら説明をしている。また、学生スタッフとして、留学生にも協力を得ている。 ■次年度生用の入学前指導プログラムのスクーリングの内容は検討中。	■学生の変化を早期に察知し、面談等を今後も継続していく。 ■留学生については、オープンキャンパス以外に個別相談での対応を継続していく。 ■AO入学前プログラムは、介護の導入に繋がるよう昨年同様に、介護場を設けたプログラムにし、個別ワーク、グループワークと段階を踏み、まとめとして介護場面を皆で実践し体感できる内容で予定していたが、中止となった。
			継続	鍼灸医療科	■2019年度からの入学生はいないため該当しない。		

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	■年度末点検※3
			継続	看護科	■2018年度より公募推薦合格者が参加した。交流が円れ安心感につながっていたようなので、参加の継続を考えて行く。	■公募推薦入学者は入学早期よりクラスになじんでいた。入学前プログラムで顔見知りの同級生の存在は心強いとの意見も聴かれたので、今年度も継続していく。	■公募推薦入学生含め、退学者は居なかった。入学前プログラムの効果と共に、気になる学生への入学早期からの面談、関りが担任の間で連携して行っていた。
	(3)教員研修	○教員のインストラクションスキル(教授力)向上に向けた取り組みは、教務委員会による学内研修会を年2回開催している。また、学内は勿論のこと、学外における研修にも積極的に取り組んでいる。継続が望まれる。 ○年2回の学内研修は、内容が良いので兼任講師も参加もできるようにしてほしい。 ○授業公開は、定着に向け更なる工夫に期待する。 ○授業公開は、兼任講師の参加について、さらなる拡大を期待している。	継続・新規	教務委員会	■年2回の学内研修会は教職員のアンケートなど参考にしながら、より要望が高く、かつ教員のインストラクションスキルの向上に有効なテーマを取り上げ、継続して実施する。教員全体のレベルアップのため効力を発揮すると考えられる場合は、テーマにより一部兼任教員の参加の可能性を検討していく。 ■外部研修への参加を促進するため、外部研修受講補助費を運用する。引き続き周知を図る。 ■授業公開については、原則として学校全体での2週間の一斉実施を継続する。2019年度は前期実施を目指し、準備する。兼任教員の参加を促す策を案出する。	■第1回教職員研修は、7月に法人本部と共催で管理職を対象として実施した。参加率は100%であった。今年度より実施後のアンケートは報告書を兼ねるという観点から記名式とし、自身の業務にどう活かすかまでを問う形式とした。 ■第2回教職員研修は、8月に常勤全教職員を対象に実施した。午前管理職、午後一般職の2部構成とし、各々の業務に合わせた内容で行った。研修後提出されたアンケートは集計、報告し、一定期間経過後に所属長を通し本人に返却、研修の成果の検証を行う予定である。 ■学内研修への兼任教員の参加については引き続き課題として検討しているが、現状ではまだ実行に至っていない。 ■外部研修受講補助費は1件の申請があり、承認された。 ■授業公開は2週間で実施した。公開授業比率は8割を超える高水準を維持、1人当たりの授業参観数も前年度を上回った。兼任教員の参加は2割増という結果であった。	■第2回教職員研修受講後に各人が記載したアンケート兼報告書を6ヶ月後に所属長を通じて本人へ返却し、研修内容を業務に活かせるか否かの検証を行うことを促した。 ■外部研修受講補助費は、2件が承認された。
1 教育理念・目的・育人人材像	1. 理念・目的・育人人材像 (1)理念・目的・育人人材像は定められているか	○専門学校は入口と出口が大切である。入口では入試のフォローや留学生についての準備、教育については研修や授業公開で努力している。出口についても2-40、卒業生フォローを充実していくとしている。入口、出口、教育の3つのステージについてバランスよく考え、実践されている。引き続き、質を高めていくことに期待している。(30年度総評)	新規	校長	■入学者の受入・教育課程の編成・卒業認定について、教育を取り巻く環境の変化との整合を、各学科において引き続き図り、時代に適った質の高い職業人教育を提供する。	■まず職業人を取り巻く社会環境との整合を図ることから、質の高い職業人を育成するための教育計画を推進する。	■各学科の運営計画に基づいて実施された成果については、3月末時点での各学科による年度末点検で校長に報告される予定である。
		○本校が目指す人材の育成充実に向けて、学科再編等の検討を引き続き進めてほしい。	継続	校長	■高校新卒者を主な対象とする専門課程の教育に限定せず、外国人や社会人も対象とした、本校の強みを生かせる新規の教育事業を具体的に推し進める。	■新規の教育事業に加え、特に医療事務の分野において、2021年度の既存学科の再編も視野に入れた検討をおこなう。	■専門課程屋間部の2021年度生の募集に向けて、医療事務系学科を含む既存学科の再編を実施した。
		○各学科における3つのポリシーの再確認をしっかりと行って、引き続きそれぞれの教育を進めて欲しい。	継続	校長	■学科ごとに3つのポリシーの再確認はされつつあるので、それらに基づいた具体的な計画を推進する。	■社会から求められる人材を念頭に置いて、専門学校におけるディプロマポリシーを、まずしっかり確認することから、具体的な計画を推し進める。	■進路指導協議会等の場で、特にディプロマポリシーの観点から、実習を含む医療事務系分野の指導について見直しをおこない、進展が見られた。
			継続	字幕制作・速記者養成科	■学科会議において3つのポリシーを提示し、兼任講師の理解を得られるよう努める。	■オープンキャンパスの際、機会があれば来校者に学科のポリシーを提示している。	■兼任講師と連携し3つのポリシーに基づいた教育に取り組んだ。
			継続	医療秘書科	■学科運営計画に基づき、全教員が3つのポリシーを踏まえ、同じ方向性を持って教育活動に取り組む。	■医療業界が求める人物像を意識し、社会人としての資質や本学科らしさも念頭に置いた教育活動に取り組んでいる。 ■4月開催の学科教員会において、兼任教員には学科の3つのポリシーを伝えた。 ■10月開催の保護者会においても、学科の3つのポリシーを伝え、理解と協力を仰ぐ予定である。	■オープンキャンパスにおいて学科のポリシーを提示し説明するとともに、モデルとなる学生スタッフの教育に努めている(アドミッションポリシー)。教員は学生参加型の授業など、理解が深まり、対話力の向上につながるよう努めている(カリキュラムポリシー)。専門性と社会性を、偏らずバランスよく有する人材育成を行っている(ディプロマポリシー)。 ■4月開催の学科会議において、兼任教員には学科の3つのポリシーを伝え、共通理解を得たと考えている。 ■10月に実施した保護者会においても、学科の3つのポリシーについて伝え、共通理解を得たと考えている。

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
			継続	医療 マネジメント科	■学科運営計画に基づいて、学科教員等に徹底し実践する。	■学科運営計画に基づき各教員が作成した目標設定について、滞りなく実施されているか、学科教員会・面接等により確認している。	■年度当初に実施する学科会議において、学科に関わる教員に対して徹底し、実践してもらった。 ■学科運営計画に基づき各教員(職員)が学科長と調整の上で作成した目標設定について、学科教員会・面接等により定期的に確認しながら、滞りなく実施してもらった。
			継続	診療情報管理 専攻科	■学科運営計画に基づいて、学科教員等に徹底し実践する。	■学科運営計画に基づき各教員が作成した目標設定について、滞りなく実施されているか、学科教員会・面接等により確認している。	■年度当初に実施する学科会議において、学科に関わる教員に対して徹底し、実践してもらった。 ■学科運営計画に基づき各教員(職員)が学科長と調整の上で作成した目標設定について、学科教員会・面接等により定期的に確認しながら、滞りなく実施してもらった。
			継続	医師事務技術 専攻科	■学科運営計画に基づき、全教員が3つのポリシーを踏まえ、同じ方向性を持って教育活動に取り組む。	■医療業界が医師事務作業補助者に求める能力や人物像を意識し、社会人としての資質も念頭に置いた教育活動に取り組んでいる。 ■4月開催の学科教員会において、兼任教員には学科の3つのポリシーを伝えた。	■医療業界が医師事務作業補助者に求める能力や人物像を意識し、社会人としての資質も念頭に置いた教育活動に取り組んだ。 ■4月開催の学科教員会において、兼任教員には学科の3つのポリシーを伝えた。
			継続	くすり・ 調剤事務科	■双方向の授業方式の導入により、積極的な参加、多くの知識を身につける、課題解決の能力演習などを通して、3つのポリシーを達成していく。	■双方向の授業方式を実際にとりいれている。その検証は来期4月の全教師会・科会で検証していく。	■双方向の授業を実施しているが、学生の参加も徐々にではあるが参加するようになってきて、効果を上げている。来期4月の全教師会・科会で討議、検証する。
			継続	介護福祉科	■学科の3つのポリシーを教員間で再確認し、教育の向上を目指す。 ■2年間の教育で「求められる介護福祉士、目指すべき像」に向けた指導をする。	■学科の3つのポリシーを常に意識し、教育や指導に取り組んでいる。 ■授業、実習を通し、求められる介護福祉士像を目指し指導している。	■知識・技術のみならず、他者との関わり・クラスメイ、留学生との関わりを学生生活の中で培うことができるよう指導している。 ■教員間も学科の3つのポリシーを意識し取り組んでいる。
			継続	鍼灸医療科	■3つのポリシーについて、4月の学科会議や日々の担任会にて教員間でしっかりと情報共有と確認を行い、学生指導の強化を図る。	■学科運営計画、臨床実習指導案に沿って滞りなく実施できている。引き続き学科内で連携を図りながら実施する。	■学科運営計画に基づき滞りなく実施できた。外部臨床実習では当初の予定より、受け入れ時間数が増え大幅に拡大したため、より充実した臨床実習を実施できた。
			継続	看護科	■教育の質的転換を図る上で、①看護の楽しさを深める力のある人材獲得(アドミッションポリシー)として、指定校推薦者の複数獲得を図る。また、②個々の教員はカリキュラムの中で国家試験を意識して授業展開を工夫する(カリキュラムポリシー)。③実践力が備わり学び続ける人材の輩出(ディプロマポリシー)が出来ているのか、年度末に評価していく。	■3ポリシーに関して教員間での共通理解を深めるため、OpenCampus用のパワーポイントを作成し、伝達している。また、評価の視点を情報収集し、それに基づき教員間で話合う機会を持つていく。	■12月末、3ポリシーについて教員間で評価、再確認を行った。各ポリシーの意味するところ、概念の解釈を確認し、表現は変えずに引き続き意識して取り組む。

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
(2)育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	○職業実践教育を更に充実させるためにも、引き続き関連業界との連携の強化に取り組んでほしい。	○職業実践教育を更に充実させるためにも、引き続き関連業界との連携の強化に取り組んでほしい。	継続	字幕制作・速記者養成科	■関連業界との教育全般にわたる連携のもと、一人一人の学生の状況を見極めながら業界ニーズに適合した人材育成に努める。	■業界関連会社の職場見学及び実務体験の機会を設けている。	■テレビ字幕業界講師による5回の特別講義、字幕制作現場の見学、実習等、通年で業界と連携し人材育成に努めている。
			継続	医療秘書科	■医療機関従事者による特別講座等を開催し学生個々の職業観醸成を促す。 ■医療機関見学の機会を学生向け及び教員向けに用意し、職種ごとの役割と業務内容に対する理解を深める。	■5月に医療機関従事者による特別講座、卒業生キャリア報告会、7月に医療系展示会見学・医療機関見学、6月～10月に病院事務実習などをおこない、段階を追って職業観が醸成されるよう工夫している。 ■教員は、それぞれの機会を生かし、医療業界の情報収集に努めている。	■5月に1年生を対象に「病院で働くこと」、2年生医療事務コース生を対象に「医療事務業務の理解」について、いずれも現役の医療機関従事者を講師に招いた特別授業を実施した。また10月に2年生医療事務コース生を対象にレポート審査会社訪問見学を実施した。 ■病院事務実習先への訪問時に収集した情報は簡易的ではあるがデータベース化し、実習先および就職先の選定指導に生かすことを始めた。 ■1年生全員が病院を見学し、業務内容、職務内容等の理解を深めた。 ■上記および模擬面接会(7月)、学会に参加し情報収集と共有に努めた。
			継続	医療マネジメント科	■病院事務実習指導者、採用担当者、病院職員・業界団体職員である特別講演講師・兼任講師、専門領域に就職した卒業生から情報収集をするとともに、学生にとっては将来について具体的な構想とするための指針とする。	■5月に病院職員である特別講演講師、医療機関等に勤務する卒業生から、それぞれ情報収集を行なった。 ■6～10月に、病院事務実習指導者から、情報収集を行なっている。 ■今後、特別講演講師から情報収集をする予定である。	■5月に実施した情報収集に引き続き、7月には模擬面接会により来校した病院職員から、10月には神奈川県病院協会主催学術大会において、11月には病院職員である特別講演講師から、それぞれ情報収集した。 ■病院事務実習先訪問時に収集した情報については、実習先・就職希望先の選定、病院事務実習指導に活かしている。これについては、さらに情報(データ)の整理が必要である。 ■2020年度は教員・学生による実際の診療情報管理室の見学について計画している。
			継続	診療情報管理専攻科	■管理士実習指導者、採用担当者、病院職員・業界団体職員である特別講演講師・兼任講師、専門領域に就職した卒業生から情報収集をするとともに、学生にとっては将来について具体的な構想とするための指針とする。	■5月に医療機関等に勤務する卒業生から、情報収集を行なった。 ■6～10月に、診療情報管理士実習指導者から、情報収集を行なっている。 ■今後、特別講演講師から情報収集をする予定である。	■10月までに診療情報管理士実習先からの情報収集を終えた。これについては、実習先の選定や管理士実習指導に活かしている。 ■11月には病院職員である特別講演講師から情報収集した。 ■2020年度は教員による実際の診療情報管理室の見学について計画している。
			継続	医師事務技術専攻科	■実際に医師事務作業補助者として勤務している方の授業を予定している。 ■複数の医療機関における実習を予定している。	■医師事務作業補助者の実務者に講師を依頼し、学生とともに教員も専門知識を学び情報を得ている。 ■7月に2つの病院における実習を終えた。医療機関により医師事務作業補助者に求められる知識・能力や役割が異なることを学んでいる。	■医師事務作業補助者の実務者に講師を依頼し、学生とともに教員も専門知識を学び貴重な情報を得た。 ■7月に2つの病院における実習を終えた。医療機関により医師事務作業補助者に求められる知識・能力や役割が異なることを学んだ。
			継続	くすり・調剤事務科	■定期的に関連企業、関連協会との打ち合わせ会を実施している。	■5月～6月に関連企業と打ち合わせ会を実施した。今後も、10月～1月にかけて関連企業、関連協会と打ち合わせ会を実施する予定である。	■5月～6月での関連企業との説明相談会により、2年生全員の就職内定を得ることができた。10月～1月に関連企業と打ち合わせを実施し、1年生の就職活動にも役立っている。来期4月～5月も企業のニーズを調査しながら、活動を継続していく。
			継続	介護福祉科	■業界と連携し、最新の介護の動向や情報を知り、カリキュラム編成や授業に反映していく。また、業界に協力をいただき特別講義等を通して授業の充実を図る。 ■2019年度医療的ケア実地研修実現に向け、引き続き準備を進めていく。	■業界主催の研修は選別し、積極的に参加している。参加者は学科内で伝え、情報の共有をしている。 ■医療的ケア実地研修は、留学生が多くなり検討の必要があり、現在保留中。	■10月に介護福祉士養成協会の研修に参加。情報を収集し学科内で共有している。2月に特別講義を実施した。
			継続	鍼灸医療科	■専門分野の学会や研修会へ積極的に参加し、そこで得た情報や動向について教員間で共有し、授業等にも反映させる。 ■鍼灸分野以外にも連携して活かせる分野をカリキュラムに導入し幅広い鍼灸師を育成する。 ■臨床実習Ⅱでは、外部臨床施設の拡大を図る。	■6月～8月教員実践講座、鍼灸法の研修会へ参加。 ■5月に2.3年生に向けた企業による灸講座を実施した。 ■外部臨床施設の協力のもと、前期臨床実習を計画に沿って実施した。	■臨床実習は外部実習先での実習時間を予定よりも大幅に確保できた。教育と臨床での各々の立場から人材育成について意見交換をおこない臨床実習Ⅲへ繋げる。 ■専門分野の学会等では情報の共有、意見交換をおこなった。

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	■年度末点検※3
			継続	看護科	■実習施設とは、実習協議会及び実習指導者会を通じて連携をはかり、近年の学生の特徴や、指導方法について共通理解していく。 ■ホームカミングday で就職後の状況についてアンケート調査を行いそれらを各病院にバックし継続教育に活かしてもらう。	■実習施設の教育担当者や実習方法や連携の在り方について率直に話し合う機会を作っている。 ■ホームカミングday については継続して計画している。	■12月に実習協議会を開催し、実習施設の教育担当者と率直な意見交換が行えた。先々を見据えた実習計画(実習場所開拓)の必要性を確認し合った。 ■ホームカミングday は学科行事として継続する。
	(4) 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	○専門職大学・専門職短期大学が開校されることにより、本校にどのような影響があり、どのように対応していくのかを考えていくことが望まれる。 ○外国人の支援や社会人の学び直しの教育が求めていることであるため、先を見据えての運営をぜひ進めていただきたい。(30年度総評)	新規	校長	■専門職大学・専門職短期大学の動向については、引き続き注視していきたい。また、外国人の支援や社会人の学び直しの教育については、学校としてすでに具体的な計画の準備を進めている。	■専門職大学・専門職短期大学については、現時点では学校数も少なく、動向に関する情報はあまりない。外国人の支援や社会人の学び直しの教育については、専門課程だけでなく、夜間・休日等の講座も含め、具体化を図っている。	■外国人の支援や社会人の学び直しの教育については、専門課程昼間部だけでなく、夜間・休日等の講座も含め、引き続き具体化を図っているところである。
2 学校運営	1. 運営方針	○運営方針の周知の仕組みはしっかりとしている。常勤の教職員に対する浸透度の確認は工夫して進めている。兼任講師に向けた働きかけの工夫が引き続き求められる。	新規	校長	■兼任講師に向けては、4月の全教員会や学科会議だけでなく、日常的に働きかける機会をさらに増やす。	■兼任講師に向けては、掲示や配付文書等も活用し、日常的に働きかける機会を増やすようにしている。	■兼任講師に向けては、掲示や配付文書だけでなく、日常的に直接働きかける機会を増やすよう、模索しているところである。
	3. 組織運営	○目標達成に向け、教職員が協力、連携した効率的な校務分掌による組織運営を円滑に行ってほしい。	新規	校長	■2019年度も前年度に引き続き、専門学校の事業計画と運営方針において、重点目標の一つとして掲げている。	■組織における重点目標の一つとして教職員間で意識され、具現化されつつある。	■教職員間での組織目標の共有については、繰り返し目標の周知徹底を図っており、徐々にではあるが、意識化され、浸透しつつある。
	6. 情報システム	○新学事システムにおいても、引き続き個人情報情報の漏えい防止にしっかりと取り組むとともに安全かつ効率的に運用してほしい。	新規	事務局長	■学園の個人情報保護に関する方針、情報セキュリティ委員会による対策等に基づき、安全かつ効率的な運用を行う。	■個人情報保護方針、情報セキュリティ委員会の対策を遵守し、適切に運用されている。	■個人情報保護方針、情報セキュリティ委員会の対策を遵守し、個人情報漏えいされることなく適切に運用された。
3 教育活動	2. 教育方法・評価等 (1)教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	○PDCAサイクルに基づく職業実践教育の実現に向けて、各学科の教育活動における具体的な応用を続けてほしい。 ○医療事務分野で始めるがん登録など、現場で求められる人材像の変化に対応するカリキュラムを創意工夫するように引き続き努めてほしい。 ○社会に出て、すぐに使うことのできる知識や技術も大事であるが、物事を継続してやり抜く力や、押さえられても元に戻ることでできる力も身につけるために、専門学校での2・3年間で何ができるかを引き続き考えてほしい。 ○必要な知識と技術を身につける前提に、本人の勉強に対する動機づけや気持ちの持続性があると思われるため、その仕組みの検討も引き続き行ってほしい。	継続・新規	校長	■引き続き職業実践教育の視点から、各学科の学科運営計画の策定と年度末点検、カリキュラムの改定等において、PDCAサイクルによる改善を推進する。	■各学科・委員会・協議会等において、PDCAサイクルによる改善が推進されている。	■各学科・委員会・協議会等において、PDCAサイクルによる改善を、継続的に推進している。
			継続・新規	字幕制作・速記者養成科	■技能教育を通じて学業への主体的な取り組みを促すとともに復元力や持続力の向上に配慮する。	■学生の主体性を尊重すると同時に持久力の向上を図っている。	■学生の学業への主体的かつ堅実な取り組みを確認している。
			継続・新規	医療秘書科	■「キャリアデザイン」等の授業で、2年間で学習目標と卒業後をイメージした長期的目標を学生個々に考えさせる。 ■将来、実務において必要とされる応用力を身につけるための基礎力定着を意識した授業進行を心がける。	■学生には、社会や医療業界に触れる機会を設けているが、表現力向上も意識し、その都度振り返りのレポートを作成させている。 ■検定合格などの目標を積み重ね、学びの持続性を引き出している。 ■学習の基礎力とともにヒューマン・スキルを身につけさせることを意識したカリキュラムに見直したが、業界動向を踏まえ、さらに検討を続ける予定である。	■外部講師を招いた特別授業や国際モダンホスピタルショウ見学をはじめ、本年度から始めたキャリアデザインにおけるキャリア教育(社会人実務者インタビュー、メンタルヘルスケア、社会生活等)において、振り返りのレポートを作成することを習慣づけ、表現力向上を目指した。
			継続・新規	医療マネジメント科	■年度当初のオリエンテーション等において、学科やそこに在籍する学生の目標について、改めて明確にし徹底する。 ■「キャリアデザイン」その他の科目を活用、日常における指導、病院事務実習による専門領域・組織での実体験により、社会人化教育を実践する。 ■医療業界の動向・ニーズについて把握し、それをカリキュラムに反映させる。	■年度当初のオリエンテーション等において、学科やそこに在籍する学生の目標について明確にし、今後の指針とした。 ■授業では特に「キャリアデザイン」の活用、日常における指導、病院事務実習による専門領域・組織での実体験により、社会人化教育を行なっている。 ■例年同様、医療業界の動向・ニーズについて把握し、それに基づき2020年度生カリキュラムを策定した。	■年度当初のオリエンテーション等において、学科やそこに在籍する学生の目標について明確にし、今後の指針とした。 ■授業や特別講演の活用、日常の学校生活における指導、病院事務実習・研修による専門領域・組織での実体験により、社会人化教育を行なった。 ■授業においては、特に「キャリアデザイン」の中に3項目を増やし、社会人化教育の強化を図った。 ■例年同様、医療業界の動向・ニーズについて情報収集・把握し、それに基づき2020年度生カリキュラムを策定した。

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	■年度末点検※3
			継続・新規	診療情報管理専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■年度当初のオリエンテーション等において、学科やそこに在籍する学生の目標について、改めて明確にし徹底する。 ■日常における指導、管理士実習による専門領域・組織での実体験により、社会人化教育を実践する。 ■医療業界の動向・ニーズについて把握し、それをカリキュラムに反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■年度当初のオリエンテーション等において、学科やそこに在籍する学生の目標について改めて明確にし、今後の指針とした。 ■日常における指導・授業、診療情報管理士実習による専門領域・組織での実体験により、社会人化教育を行っている。 ■例年同様、専門分野の動向・ニーズについて把握し、それに基づき2020年度生カリキュラムを策定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ■年度当初のオリエンテーション等において、学科やそこに在籍する学生の目標について改めて明確にし、今後の指針とした。 ■授業や特別講演の活用、日常の学校生活における指導、診療情報管理士実習による専門領域・組織での実体験により、社会人化教育を行なった。 ■例年同様、専門分野の動向・ニーズについて把握し、それに基づき2020年度生カリキュラムを策定した。 ■2020年度生カリキュラムの中に「キャリアデザイン」を配置した。
			継続・新規	医師事務技術専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■将来、実務において必要とされる応用力を身につけるための基礎力定着を意識した授業進行を心がける。 ■医師、看護師との適切な接し方を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■専攻科としてより実践的な力を身につける指導を意識している。 ■実務者である兼任講師と接することが、日常的な社会人化教育となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■専攻科としてより実践的な力を身につける指導を意識した。 ■実務者である兼任講師と接することが、日常的な社会人教育となつたと捉えている。
			継続・新規	くすり・調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■双方向の授業方式の導入により、時にはグループ分けして、テーマを決めて討議、発表などを通して課題解決能力などを身につける。 ■「応対の技術」などの授業内で、学んだ知識が、応対の演習を通して役立つことを理解することで、学ぶことの動機につなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■実際に双方向授業、応対の演習を授業内で取り入れている。今後も継続し、検証は来期4月の全教師会・科会にて行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■一定の効果を上げていっているので、今後も継続していく。検証は来期4月の全教師会・科会で討議、検証していく。
			継続・新規	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■2021年度新カリキュラムでは、「実践力」に即した教育を5つの観点(チームマネジメント能力・地域との関わり・認知症ケア・介護過程・医療との連携)を織り込んだ内容で編成していく。 ■専門性教育だけではなく、社会性教育、実践力を養っていくよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■実践を通し学べるような授業内容に取り組んでいる。 ■一社会人としての自覚がもてるよう指導している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■実践を織り込んだ授業展開が進められるよう兼任講師とも連携を取り進めている。 ■業界の方を招き、特別講義を実施し学びを深めている。
			継続・新規	鍼灸医療科	<ul style="list-style-type: none"> ■関連企業や治療院とは、これまで以上に意見交換の場を設けて連携を図る。 ■臨床実習Ⅱでは外部臨床施設を拡大する。臨床の現場から医療体制を理解し今後の鍼灸師像を学ぶ。 ■学生のモチベーションレベルに合わせた、少人数あるいは個々の対応を引き続き実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■関連企業や治療院とは外部臨床実習を通して、より深い連携を図れている。 ■臨床実習Ⅱは、学事日程の変更による時間的な余裕と外部実習先の十分な確保により、多面性に満ちた実習が行えた。学生自身のモチベーションアップに繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■外部臨床実習先では、治療必要度の高い種々の訴えの患者に接することで高い水準の医療を学習できた。経験することで実習前に比べて医療人としての意識付けが出来ている。
			継続・新規	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■主たる実習施設の新人看護師研修とつなげて「看護実践基礎力」、「成長欲求」、「生活力」の育成が図れているか、カリキュラムの評価をしていく。 ■学校と施設との情報共有を密にし継続教育の充実を図って行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ■卒業生の声を聴きながら、カリキュラムの評価を継続して行く。 ■施設の教育担当者と密なる連携を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■主たる実習施設に就職した卒業生2年目ナースにインタビューをして、内容をカテゴリー化した。知識、技術、態度共に成長した姿から、学び続ける素地を植え付けられていると再確認できた。
		○コマシラバスについては、科目の特性から有効と思われるものから引き続き検討してほしい。	継続	校長	<ul style="list-style-type: none"> ■検定対策等、コマシラバスが有効と思われるケースがあれば、具体的な検討を、引き続き学科に働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ■授業の指導案作成の実践研修に、今年も一部の教職員を参加させた。また、コマシラバスの共通化が有効と思われるケースについては、検討を働きかけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■コマシラバスの共通化が有効と思われるケースについて検討を働きかけているが、検定・資格指導の一部を除いて、まだ十分な成果は出ていない。
		○発表形式の授業は、自分の考えを人前で話すことの慣れが就職活動や仕事に役立と言われている。引き続きの取り組みが望まれる。	継続	字幕制作・速記者養成科	<ul style="list-style-type: none"> ■人前で話すことについては、オリエンテーションや「キャリアデザイン」の授業を活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ■就職活動準備の一環として「キャリアサポートプログラム」を実施している。校外学習やイベント時には特に、コミュニケーションの活性化を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■「キャリアデザイン」の授業、キャリアサポートセンターによる指導が、就職活動や実習等におけるコミュニケーション力に確実に繋がっている。
			継続	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■話すことへの苦手意識を取り除くため、まずはグループワーク等で少人数の中で話す機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ■キャリアデザインにおいてグループワークを取り入れ、振り返りを発表の機会としている。 ■2年次実習指導の一環として、実習報告会を実施するが、ここに聞き手として1年生を参加させる予定である。 ■2年次パソコン演習Ⅳ、病棟コミュニケーション実務Ⅱ(クラークコース)等、複数の教科において、発表形式の授業を取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■国際モダンホスピタルショウ見学や病院見学、体育祭、学園祭等でグループ行動を前年度よりも円滑に行うことができた。 ■2年次実習指導の「実習報告会」において、聞き手として1年生を参加させた。 ■2年次パソコン演習Ⅳ、病棟コミュニケーション実務Ⅱ(クラークコース)において、発表形式の授業を実施した。

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3			
			継続	医療マネジメント科	■コミュニケーション力育成・学生参加発表型の授業については既に設けているが、引き続き実施する。 ■特に4年生については、カリキュラムにおける重要項目であり、緻密に実施する。	■コミュニケーション力育成・学生参加発表型の授業については、講義要項に基づき実施している。 ■4年生については、日常的な指導・授業をベースにして、9月に日本診療情報管理学会において発表した。 ■特に4年生については、今後、2回発表の機会を設ける予定である。	■コミュニケーション力育成・学生参加型の授業については、講義要項に基づき実施した。 ■病院事務実習や就職活動(支援)を通して、コミュニケーション力の育成をした。 ■4年生については、9月に引き続き、10月に神奈川県病院協会主催学術大会において発表、2月に学内において卒業研究論文の発表を行なった。			
			継続	診療情報管理専攻科	■コミュニケーション力育成・学生参加発表型の授業については既に設けているが、引き続き実施する。	■学科の性格上、コミュニケーション力育成・学生参加発表型の授業は少ないが、講義要項に基づき実施している。 ■診療情報管理士実習を通して、コミュニケーション力育成をしている。	■学科の性格上、コミュニケーション力育成・学生参加発表型の授業は少ないが、講義要項に基づき実施した。 ■診療情報管理士実習や就職活動(支援)を通して、コミュニケーション力の育成をした。			
			継続	医師事務技術専攻科	■複数の医療機関における実習の場で新たな関係構築の経験を積むことで対話力を向上させる。	■少人数の学科であることから、本年度は対話力向上を目標としている。	■少人数の学科であることから、実務者である講師と十分な対話の機会を得られる環境であったと捉えている。			
			継続	くすり・調剤事務科	■「ドラッグストアのマネジメント」などの科目内で、テーマを決めて、グループ討議・発表、また個人発表などで自分の考えをまとめて発表の能力をつけさせ、就職活動に役立てる。	■2年生の前期「ドラッグストアのマネジメント」などの授業内に、グループ発表、個人発表を実施した。その結果、発表能力を身につけることができた。それを生かして、卒業後の活躍に期待したい。さらに、2年生の後期「販売士」の授業内でも発表形式が一部導入されているので、さらに磨きをかけることが期待される。	■学生の積極的、かつ内容も具体的・革新的な提案が増えてきて、効果を上げつつある。就職後の企業内での活動に役立つ内容であるので、今後も継続していく。			
			継続	介護福祉科	■発表形式の授業やケーススタディ発表会等を通し、対話力の向上を図っていく。	■各授業では発表の機会を作り、対話力を高めている。	■12月にケーススタディ発表会を実施した。授業でもグループ発表、個別発表の機会を作っている。			
			継続	鍼灸医療科	■2年生は外部臨床施設での実習を設けている。臨床現場での対話力や対応力を学ぶ場としている。 ■3年生は症例報告会での発表の場を設けている。	■2年生全員に対して外部実習先の指導者より、患者様とのコミュニケーション力について高評価を頂いた。 ■症例報告会は準備中。	■教育課程の総仕上げに位置づけしている3年生の症例報告会は12月に実施済み。 ■2年生の外部臨床実習は実習先での必要な力量が求められることで、学生自身のモチベーションアップに繋がったと感じている。			
			継続	看護科	■発表形式の授業を通じてプレゼンテーション力を高める工夫を継続していく。	■2年生は東京都の看護研究発表会に参加予定。3年生は当校における看護研究発表会を、企画・運営・評価する機会として取り組んでいる。	■3年生は9月に看護研究発表会を実施した。2月には看護観発表を行う。1、2年生は授業の中かなりのグループワークを取り入れている。			
			新規	介護福祉科	○介護福祉士の養成課程は、大学が平成31年度、専門学校が平成33年度からカリキュラム変更となる。きちんと対応したカリキュラム・教育内容となるように検討を進めてほしい。	■「介護福祉士養成課程における教育内容の見直し」に基づき、教育課程編成委員会での意見や先行する大学の情報も入れながら、新カリキュラムへの準備を進める。 ■各領域のねらいや教育内容の目的、主旨を踏まえ、相互の体系的な関連性・順次性を考慮した教育内容にしていく。	■新カリキュラムに向けた科目内容の見直し、講師との打ち合わせを進めている。	■教育課程編成委員会、実習施設や研修会の情報を参考にまとめ、現在新カリキュラムを作成中。担当教員が決定している科目については依頼している。		
			(2)教育課程について、外部の意見を反映しているか		○業界出身の兼任講師との打ち合わせ、卒業生や就職先との懇談などから得た情報をカリキュラムに生かす努力を引き続き行ってほしい。 ○カリキュラムの編成は、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会以外の、外部関係者の声も積極的に取り入れる仕組みを作ってほしい。	新規	字幕制作・速記者養成科	■授業運営に関して業界講師と日常的に打ち合わせを行う。 ■カリキュラム見直しの際には業界関係者の意見を伺い、カリキュラム編成に生かすようにする。	■授業運営、校外学習に関し業界講師と打ち合わせを行っている。 ■カリキュラム見直しの際は業界関係者の意見を取り入れている。	■授業運営等に関して業界講師と随時打ち合わせを行っている。 ■教育課程に業界関係者の意見を反映している。
						新規	医療秘書科	■就職先、実習先との接点を増やし、医療機関の現状を認識し、将来を見据えたカリキュラム編成を継続して検討する。 ■卒業生の協力によるイベント開催を検討する。	■兼任講師との日常的な打ち合わせから得られた情報を、常勤講師間で共有し次年度のカリキュラム編成に生かす努力を続ける。 ■学園祭で、卒業生との情報交換の場を設ける予定である。	■教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会、学会、研究会はもとより、卒業生、インターン生の総レポートから得られた情報などを次年度カリキュラムの策定に反映させることを努めた。

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	■中間点検 ※2	■年度末点検※3
			新規	医療 マネジメント科	■両委員会だけでなく、学会、研修会、研究会、日本病院会説明会、医療機関、専門領域の外部講師、実習・求人先から情報収集し、それをカリキュラム策定に反映させる。	■前年度生・今年度生カリキュラムを大きく改編したこともあり、今回は小変更になるが、教育課程編成委員会・業界団体等の意見を参考に、次年度生カリキュラムにおいては管理士科目を中心に小変更して策定した。	■2020年度カリキュラムについては、教育課程編成委員会・業界団体・病院職員・外部講師の意見を参考に、管理士科目を中心に小変更して策定した。 ■次年度以降についても、外部から情報を収集し、それをカリキュラム策定の参考とする。
			新規	診療情報管理 専攻科	■両委員会だけでなく、学会、研修会、研究会、日本病院会説明会、医療機関、専門領域の外部講師、実習・求人先から情報収集し、それをカリキュラム策定に反映させる。	■日本病院会によるカリキュラムを中心とし、それ以外の例えば専門領域の教員の意見も取り入れて、次年度生カリキュラムを策定した。	■2020年度カリキュラムについては、日本病院会によるカリキュラムを中心に据え、教育課程編成委員会、専門領域の教員の意見も取り入れて策定した。
			新規	医師事務技 術専攻科	■就職先、実習先との接点を増やし、医療機関の現状を認識し、将来を見据えたカリキュラム編成を継続して検討する。	■兼任講師との日常的な打ち合わせから得られた情報を、常勤講師間で共有し次年度のカリキュラム編成に生かす努力を続ける。 ■学園祭で、卒業生との情報交換の場を設ける予定である。	■兼任講師との日常的な打ち合わせから得られた情報を、今後も医師事務作業補助者教育に生かす努力を続ける。
			新規	くすり・ 調剤事務科	■年2回の学科会議による業界出身の兼務講師からの情報やアドバイス、就職先および学生採用予定先の企業人事採用担当者との定期的な打ち合わせなどを通して、カリキュラム作成に生かしていく情報を継続して入手している。引き続き取り組んでいく。	■4月の科会での講師から、および5月～6月の関連企業との打ち合わせから、カリキュラム作成に必要な情報を入手し、それらを反映して、来期カリキュラム作成に役立てた。今後も継続して情報を入手していく。	■最新の多くの情報を得ることができ、カリキュラム作成に役立っているため、来年以降も継続していく。また来年度は、教育課程編成委員会の立ち上げを予定している。
			新規	介護福祉科	■カリキュラム編成は、教育課程編成委員会での意見や兼任講師、業界、実習施設等の情報を取り入れ進めていく。	■教育課程編成委員会、実習先、兼任講師からの意見や研修での情報を得ながら進めている。	■教育課程編成委員会、実習施設や研修会の情報を参考にし、カリキュラム編成に向けて準備している。
			新規	鍼灸医療科	■臨床実習Ⅰ外部見学実習のヒアリングの結果を臨床実習Ⅱ外部臨床実習へ反映させる。実習の目的や評価に対して共通認識のもと進めていく。	■臨床実習Ⅱは実習指導案に沿って、予定通り終了した。 ■外部実習先とは実習の前、中、後とヒアリングを実施した。今後の臨床実習Ⅲ、卒後に繋げていく。	■外部臨床実習先のヒアリングをまとめ次年度の臨床実習Ⅲの計画を作成している。 ■学生の臨床実習をおこなう到達点が高い場合は、早期指導を実施する予定である。
			新規	看護科	■卒業生からの職業説明会及び、新人看護職員研修制度に関わる厚労省ガイドラインの説明を授業の中に取り入れて行く。	■説明会及び授業の中に取り入れている。	■教育課程編成委員会や実習施設の意見を取り入れ、カリキュラム改正に向けて準備している。
			新規	CSC	■実習や就職実績のある病院への訪問や就職模擬面接会での聞き取り結果を、キャリアサポートプログラムの日程や内容に生かすよう取り組んでいる。また卒業生の声も卒業生就職報告会や日頃の学校への訪問したものへのアンケートを通じての聞き取りを行い、意見を聞いている。これらを引き続き行っていく。	■実習訪問や就職模擬面接会で聞き取りを行った。また卒業生就職報告会で卒業生に対してのアンケートを通じての聞き取りを行った。	■実習訪問や就職模擬面接会で聞き取りを行った。また卒業生就職報告会で卒業生に対してのアンケートを通じての聞き取りを行った。内定先の訪問・聞き取りは年度末まで行う。
			(3)キャリア教育を実施しているか	○キャリアサポートプログラムは、平成28年度からはキャリアサポートセンター(CSC)と進路指導協議会が連携して、教育課程編成委員会や本委員会の意見、提案なども参考に、時代の変化に即し、学生が取り組み易く、積極的に関われるという観点を踏まえた改編を開始している。さらなる取り組みに期待したい。	継続	CSC	■2018年度、進路指導協議会と連携してキャリアサポートプログラムの内容について見直しを行った。内容はプログラム全体を改編するものとなっていて、より学生が興味を持って取り組むことができ、労働に関する知識や就職に意欲を持てる内容とした。2019年度はこのプログラム変更の検証を行い更なる改善をしていきたい。
継続	進路指導協議会	■各学科と連携し、継続的に、キャリアサポートプログラムや「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」を見直し、社会の変化や学生の状況に合わせて速やかに対応する。			■各学科と連携し、今年度も病院実習およびインターンシップを含めたキャリア教育の内容の検討を行っている。すでに病院実習やインターンシップについての改善案も出ていて一部実施した。病院実習については、病院側からの要望や就活の早期化対策として、1年次の春に一部実施。またインターンシップについても、様々な辞退対策を取り、その成果が出ている。	■各学科と連携し、今年度も病院実習およびインターンシップを含めたキャリア教育の内容の検討を行っている。すでに病院実習やインターンシップについての改善案も出ていて一部実施した。病院実習については、病院側からの要望や就活の早期化対策として、1年次の春に一部実施。またインターンシップについても、様々な辞退対策を取り、その成果が出ている。	
(4)授業評価を実施しているか	○アンケート結果をより有効に活用する意味からも、引き続き定期的な見直しにおいて、必要な改善を進めてほしい。	継続	点検委員会	■2020年度が改訂年度である。2019年度中に自己点検・自己評価委員会において委員に協議をさせていただき、その結果をまとめる。	■自己点検・自己評価委員会において協議中である。	■自己点検・自己評価委員会において質問項目の見直しを行った。2020年度から改定版で実施することが決定した。	

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	■年度末点検※3
		○授業アンケートは相対的に見ると「授業中に居眠りはしていない」「教員は見やすさ、わかりやすさに配慮して工夫しながら授業を進めている」の数値が若干低い結果である。ここ数年、教員研修が活発化してきて授業改善にも取り組んでいるが、この2点も他項目の数値に近づこう授業の質の向上に努めていただきたい。(30年度総評)	新規	字幕制作・速記者養成科	■学生の授業時等の状況について教員間で情報交換を行い、問題意識の共有化を図る。	■学生は自身の目標管理の下、モチベーションを維持している。持続性に配慮し、授業に休憩とストレッチの機会を設けている。	■教員間で学生一人一人の課題を共有した上で、指導・支援を行った。
			新規	医療秘書科	■講義型授業においてもアクティブラーニングスタイルを取り入れるなど、一方的な授業進行にならないよう留意する。	■ICT機器を利用し、学生が入学前までに受けてきた学習環境を考慮し、授業展開を工夫している。 ■一部の科目においては、2年生が1年生の授業をサポートする取り組みをおこなっている。 ■興味関心を持って授業に取り組むことが居眠り防止に繋がると捉えている。	■ICT機器を利用し、学生が入学前までに受けてきた学習環境を考慮し、授業展開を工夫した。 ■一部の科目においては、2年生が1年生の授業をサポートする取り組みを実践し効果を上げた。
			新規	医療マネジメント科	■授業アンケート結果がデータとして絶対的なものであるとは必ずしも考えてはいないが、全体的にその詳細について把握し、具体的な対応策を検討した上で、場合により各担当教員と情報共有して改善策を実践してもらう。	■授業アンケート結果については、担当教員各人にフィードバックして、今後の授業運営の為の参考としてもらっている。 ■アンケートデータに基づき、特に改善が必要と思われる場合は、該当する教員との話し合いにより、今後の具体的な改善策について示してもらっている。	■授業アンケート結果については、担当教員各人にフィードバックして、その後の授業運営の為の参考としてもらった。 ■アンケートデータに基づき、特に改善が必要と思われる場合は、該当する教員との話し合いにより、今後の具体的な改善策について示してもらい、それを実践してもらった。 ■アンケートデータを一部参考にして、次年度担当教員案を策定・実施した。
			新規	診療情報管理専攻科	■授業アンケート結果がデータとして絶対的なものであるとは必ずしも考えてはいないが、全体的にその詳細について把握し、具体的な対応策を検討した上で、場合により各担当教員と情報共有して改善策を実践してもらう。	■授業アンケート結果については、担当教員各人にフィードバックして、今後の授業運営の為の参考としてもらっている。	■授業アンケート結果については、担当教員各人にフィードバックして、その後の授業運営の為の参考としてもらった。 ■アンケートデータを一部参考にして、次年度担当教員案を策定・実施した。
			新規	医師事務技術専攻科	■学習を深める学科であり、また少人数クラスのため積極的姿勢の学生であることを期待するが、一方的な授業進行にならないよう留意する。	■学生の意識・意欲の高さから、居眠りは発生していない。	■学生の意識・意欲の高さから、居眠りは発生していない。
			新規	くすり・調剤事務科	■授業の中間くらいでの小休止、アイスブレイク、エピソード、小テスト実施、双方向授業など、居眠り防止策を各教師に伝えて実施している。これらを継続していく。	■双方向授業の導入により、学生の居眠り防止が効果をあげている。	■一定の効果を上げている。今後も継続していく。
			新規	介護福祉科	■授業アンケート結果を学科内、個別で振り返り授業の改善に努める。	■複数担当科目では、教員間で指導の確認をしている。 ■授業アンケートの意見を振り返り授業の改善に取り組んでいる。	■兼任講師、教員間での情報を共有し、授業の工夫をしている。 ■授業アンケートの結果を教員にフィードバックし改善に努めている。
			新規	鍼灸医療科	■学生のモチベーションアップ・維持のために、授業ごとに学習の目的を明確に伝え、将来に役立つ内容であることを十分に理解させる。 ■eラーニングやワークシートの活用および演習を取り込んだ授業展開を取り入れていく。	■授業アンケートで改善すべき点があれば対処し学生にフィードバックをしている。 ■公開授業では学科長が専任教員の参観をおこなった。授業形式については、各担当教員に任せており、各々が解りやすい授業を工夫している。	■後期授業アンケートに対するフィードバック、改善に取り組んでいる。特に新任教員には必要に応じて学科内でサポートを実施した。
			新規	看護科	■授業中の居眠りに関しては、教員間で統一した指導が必要と考える。また、担任面接を通じ原因を明らかにして対策を考える。	■非常勤講師との情報共有、専任教員間での話し合いを重ねて授業方法を見直している。	■非常勤講師と教員間で、教授方法についての情報共有をしている。
4. 資格・免許の取得の指導体制		○国家試験を受験する学科においては、受験資格の要件を明確に説明して指導を行っている。引き続き試験問題の傾向に合わせた指導に期待している。	継続	介護福祉科	■国家試験受験について、試験までの流れや学習法、対策等についての説明会を継続していく。模擬試験の結果を分析し個々に合った指導をする。 ■留学生は初めての国家試験受験に臨むため、サポート体制を作っていく。	■留学生が初の国家試験受験となるため、適宜説明を実施している。 ■模擬試験の結果をデータ化し、個別面談、指導をしている。	■講師による国家試験対策講座を12.1月に実施した。また、国家試験対策授業では各担当科目別に教員が実施した。 ■留学生についても日本人学生と同様に指導したが、個別に対応も行った。

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	■年度末点検※3
5.教員・教員組織	○専任教員と兼任講師の情報交換を一層進めて、学校全体が良くなっていくように両者の連携、協力による努力を今後も続けてほしい。 ○(その手段の一つとして)全体協議の場である学科教員会を授業期毎に開催することを引き続き検討してほしい。	継続	鍼灸医療科	■受験資格要件は明確にし、文書で学生、関係者や保護者に配布している。 ■国家試験の問題は学科内で出題傾向や解答率など分析し、情報共有している。各教科担当は授業に反映し指導にあたる。 ■模擬試験実施後、個人成績表を作成し、個々に応じた指導に当たる。	■1～3回国家試験模擬試験を実施済み。結果をもとに面談をおこない個々の学習方法についてアドバイスをしている。 ■成績不振者には空き時間を利用して個別対応を実施している。	■年間6回の国試模擬試験は終了している。結果については詳細にデータ分析後、フィードバックを実施した。	
		継続	看護科	■看護師養成所の卒業判定をもって、国家試験受験資格が得られることを入学時オリエンテーションで説明する。 ■卒業要件としての単位修得に関わる内容は学生ハンドブックに記載し、学年が進むごとまた単位に絡む状況発生時に随時学生に及び保護者に説明している。 ■国家試験対策としては、1年次、2年次は低学年の模擬試験を実施。3年次には少人数のサポート体制をとって指導を固めている。3年次では8回の模擬試験を実施しその結果を分析して、サポートメンバーの組み換えや指導方法の見直しを行っている。	■年度初めは学生への浸透に尽力しているが、保護者への浸透までには至らない状況がある。今後は資格要件に関して、タイムリーに保護者への説明を行っていく。 ■学年のレベルに合わせた模擬試験を適宜行い、結果をデータ化して、個別面接を実施している。 ■3年生においては、学力が伸び悩んでいる学生をピックアップしてサポートするサポーター制をとって個別対応を行っている。	■要望や必要性に応じて、保護者との面談を実施している。 ■国家試験対策は、12月～1月に外部講師の協力も得ながら専任教員主体となって、集中講義を行った。また、サポーター制も並行して関り、専任教員は集団指導と小集団指導、個別指導を学生のニーズに合わせて展開した。	
		継続	校長	■各職業分野での人材ニーズが変化しつつある時代において、兼任講師の方々の協力は極めて重要と考えている。兼任講師も含まれた学科会議については、なるべく多くの兼任講師に参加していただくための日程調整がかなり難しいのが現実だが、年度内の複数回開催について各学科に働きかける。	■日程調整がかなり難しいが、一部の学科では年度内の複数回開催が試みられている。	■兼任講師の方々も多忙で、日程調整がかなり難しいのが現実だが、一部の学科では年度内の複数回開催も試みられた。	
		継続	字幕制作・速記者養成科	■兼任講師との情報交換は一定の機会を確保する。 ■授業期毎の教員会開催は関連業界事情により難しい。	■兼任講師と情報交換や打ち合わせを日常的に行っている。	■兼任講師との情報交換・共有、打ち合わせを必要に応じ都度行っている。	
		継続	医療秘書科	■担任会、学科教員会を定期的に開催する。 ■半期ごとの学科会議開催を検討する。 ■退学等学籍異動以外の事項に関しても常勤・兼任教員間での意見交換の場を設ける。	■学科会議は年度当初に開催し、情報交換をおこなった。 ■後期授業開始に合わせ、兼任教員との情報交換は適宜おこなっている。	■学科教員会を開催し、各種進捗状況の把握や学科教員が抱える問題を共有した。 ■繁忙期など、学科教員会が開催できない場合はサイボウズを利用して連絡事項の伝達を徹底し、随時コミュニケーションを図ることができた。	
		継続	医療マネジメント科	■年度当初に実施する学科会議を活用する。 ■学科教員会について、定期的を実施する。 ■学科教員間の打合せ、学科教員と兼任講師との情報交換・共有について、適宜実施する。	■年度当初に実施した学科会議を活用した。 ■学科教員会・担任会を実施し、情報共有・情報交換・方針決定等を行なっている。 ■学科教員各人が、必要に応じて打合せを行なっている。 ■兼任講師との情報交換を実施している。	■年度当初に実施した学科会議を活用した。 ■学科教員会・担任会を定期的に実施し、情報共有・情報交換・方針決定等を行なった。 ■学科教員各人が、必要に応じて打合せを行なった。 ■学科長・副学科長への報告・相談を、適宜実施した。 ■兼任講師との情報交換を適宜実施した。	
		継続	診療情報管理専攻科	■年度当初に実施する学科会議を活用する。 ■学科教員会について、定期的を実施する。 ■学科教員間の打合せ、学科教員と兼任講師との情報交換・共有について、適宜実施する。	■年度当初に実施した学科会議を活用した。 ■学科教員会・担任会を実施し、情報共有・情報交換・方針決定等を行なっている。 ■学科教員各人が、必要に応じて打合せを行なっている。 ■兼任講師との情報交換を実施している。	■年度当初に実施した学科会議を活用した。 ■学科教員会・担任会を定期的に実施し、情報共有・情報交換・方針決定等を行なった。 ■学科教員各人が、必要に応じて打合せを行なった。 ■学科長への報告・相談を、適宜実施した。 ■兼任講師との情報交換を適宜実施した。	
		継続	医師事務技術専攻科	■退学等学籍異動以外の事項に関しても常勤・兼任教員間での意見交換の場を設ける。	■学科会議は年度当初に開催し、情報交換をおこなった。 ■後期授業開始に合わせ、兼任教員との情報交換は適宜おこなっている。	■学科会議は年度当初に開催し、情報交換をおこなった。 ■後期授業開始に合わせ、兼任教員との情報交換は適宜おこなった。	
		継続	くすり・調剤事務科	■兼任講師の授業出席日に、授業担当クラスの状況、遅刻欠席状況、授業態度、テスト結果などの情報交換をしている。また、学科内で教師との連絡打ち合わせをこまめに実施している。	■兼任講師の授業出席日に、積極的に情報交換を実施している。全員で情報を共有するのに役立っている。	■大変効果を上げている。今後も継続していく。	
		継続	介護福祉科	■教員、兼任講師間で情報の共有を適宜、図る。 ■学科教員会での情報交換と授業進捗表を継続していく。	■適宜、教員と兼任教員間で情報交換をし共有している。 ■授業進捗表は継続中。	■教員と兼任講師間で情報の共有をしている。 ■授業進捗表は記入し、共有している。	

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
4 学修成果	2. 資格、免許の取得率	○資格・検定取得の目標は、専門学校教育の大きなテーマの一つであることから、その取り組みと成果を本校の強みとして謳えるように、引き続きしっかりと進めてほしい。	継続	鍼灸医療科	<ul style="list-style-type: none"> ■鍼灸医療科の教員全体でメーリングリストを作成している。適宜、情報の共有を図っている。また、授業日には担任が中心となり専任教員と直接、対話をしていく。 ■4月の学科会議に不参加の専任教員には、授業開始日に十分に説明し、理解や情報の共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■兼任、専任教員間の情報共有を授業毎に図っている。 ■国家試験模擬試験の問題や結果を配布し、授業や期末試験に反映して頂くようお願いしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■専任・兼任教員間での情報の共有や意見交換は常におこない連携は取れている。
			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■担任と兼任講師で情報の共有を図り、クラス運営に反映させていく。 ■科としての決定機関である、学科教員会での情報共有を引き続き進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ■引き続き進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ■担任と兼任講師の情報共有はタイミングを逃す場合もあったが、意識的に図ろうとしていた。
			継続	校長	<ul style="list-style-type: none"> ■各学科と教科系を軸に、学科運営計画の年度末点検等で、これまでの取り組みと成果を検証しつつ、引き続き推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■本年度の学科運営計画に基づいて、各学科で取り組みを進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■本年度の学科運営計画に基づいて、各学科で着実に取り組みを進め、成果に結びついている。
			継続	字幕制作・速記者養成科	<ul style="list-style-type: none"> ■校内認定資格の一つの指針として教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■10月末に行われる新規検定のプレ検定への参加を促進している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■新規検定(キャプションライター技能検定)のプレテストにおいて2級認定の結果を得た。
			継続	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■医師事務作業補助技能認定試験の取得者増加に努める。 ■診療報酬請求事務Ⅱ・Ⅲ・Ⅳにおいて進捗別クラス編成を継続実施する。 ■卒業時点での診療報酬請求事務能力認定試験合格者数の増加に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ■1年生の診療報酬請求事務Ⅱ、2年生の診療報酬請求事務Ⅲ・Ⅳにおいて、進捗別クラス編成による授業をおこなっている。 ■診療報酬請求事務能力認定試験の合格率向上に努めている。 ■2年生後期の選択科目(クォーター制)において、検定の卒業時取得率アップを目指す取り組みを続けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■2年生の診療報酬請求事務Ⅲ・Ⅳにおいて進捗別クラス編成による授業を実施し、学生の理解度、目指す資格級に即した指導を実施した。 ■1年生の診療報酬請求事務Ⅱにおいても進捗別クラス編成による指導を実施した。 ■医療秘書技能検定3級の卒業時保有率が100%を達成した。 ■診療報酬請求事務能力認定試験の合格者数は例年通りである。 ■2年生後期の選択科目として、クォーター制の「医療秘書実務Ⅱ」「医療コンピュータ実務Ⅲ」「PCインストラクション」を軌道に乗せた。学生サポーター制を導入することにより、アクティブラーニング型授業のモデルケースとなった。
			継続	医療マネジメント科	<ul style="list-style-type: none"> ■年度当初に学科目標を設定し、それについては担当する専門領域の教員に徹底した上で対策を実施し、その結果について検証、その後の対策を決定・実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■年度当初に設定した学科目標に沿って実施している。 ■前期の検定取得実績について検証しており、それに基づき後期の対策を開始する予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ■年度当初に設定した学科目標に沿って実施した。具体的には、授業を中心としながら受験対策講座も実施して、資格取得の為に対策とした。 ■今年度の検定取得実績については年度末近くに検証し、それに基づき次年度の目標設定と具体的な対策を策定する予定である。
			継続	診療情報管理専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■診療情報管理士認定試験の資格取得が最大の目的である。その為には授業だけでなく、各種対策を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■授業だけでなく、模擬試験・受験対策講座の実施、アプリの活用等により、診療情報管理士認定試験の資格取得を目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■年度当初に設定した学科目標に沿って実施した。具体的には、授業だけでなく模擬試験・受験対策講座の実施、アプリの活用等により、診療情報管理士認定試験取得の対策とした。 ■今年度の取得状況について年度末近くに検証し、それに基づき次年度の目標設定と具体的な対策を策定する予定である。
			継続	医師事務技術専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■医師事務作業補助技能認定試験の全員合格を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ■医師事務作業補助技能認定試験の全員合格を目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■医師事務作業補助技能認定試験の受験にいたらなかった。
継続	くすり・調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■学生の苦手な部分、わかりにくい部分を補助的に教える科目をつくり、違う角度から説明、演習問題などにより、学生の苦手意識を払しょくして、より理解を深めることで資格・検定の合格率向上に役に立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■1年次の早い時期から、資格合格のために、すでに今期から導入したあらたな科目もあるが、さらにあらたな科目の導入を来季のカリキュラムに反映した。 	<ul style="list-style-type: none"> ■特に登録販売者試験の対策として今期から導入している。来期の登録販売者試験の合格率などで、その効果を検証する。 			
継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■全員が国家試験の合格を目指すよう、教員間の連携を図り取り組んでいく。 ■福祉事務管理技能検定資格取得の意義を伝え、兼任講師と連携し資格取得を目指すようサポートしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ■定期試験や国家試験模擬試験の結果から個々の理解度、弱点を把握しサポートしている。 ■福祉事務管理技能検定試験は任意で受験している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■国家試験対策科目の時間で、教員が分担しサポートしている。国家試験頻出問題を分析し、授業で解説している。 			

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
3. 卒業生の社会的評価	○職業実践教育の効果については、様々な機会を捉えて意見聴取やアンケートを行っているが、卒業生や就職先等の評価を確認するための学校全体としての調査方法を引き続き検討し、実践することが望まれる。		継続	鍼灸医療科	<ul style="list-style-type: none"> ■国家試験模擬試験の内容や、昨年見直した外部模試の検討を継続する。 ■1, 2年次の未修得科目や成績不振の学生には、学習プランを作成し履行させる。 ■3年生には4月より空き時間を利用した学習の習慣付けを実施する。 ■2年次より外部模試を実施し、国家試験に対する意識付けをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■学習の習慣化が進んでいない学生には、積極的にフォローを実施中。 ■成績不振者には空き時間を利用して個別対応を実施している ■今年度より2年生の外部模擬試験を導入した。早い段階で国家試験に対する意識付けを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■外部模試では、他校との比較ができ、学生自身の学習意欲にもつながった。 ■教員の積極的なフォローにより、学習習慣が身につけてきている。引き続き継続的なフォローをおこなう。
			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■国家試験の合格率を全国平均並みにupするため、教員間の連携を図り取り組んでいく。 ■定期的に担任会議を開催し、1年次からの取り組みで強化、工夫すべきところをまとめ、学科教員会議で専任教員への周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■学年の特徴に合わせて、指導方法の工夫を図り、取り組んでいる。引き続き安定した合格率を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ■模擬試験においては、常に全国平均を上回っているが、成績上位者と下位者の間隔が大きいのが本学年の特徴であった。そこを考えての対策を検討した。
			継続	字幕制作・速記者養成科	<ul style="list-style-type: none"> ■業界関連イベント等の機会を捉え、卒業生や就職先からの情報を収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■関連企業訪問、業界関係者の会合等により卒業生の社会的評価を確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■企業訪問、企業情報、卒業生のメール等により、卒業生の社会的評価をある程度把握している。
			継続	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■校友会との連携や卒業生ネットワーク(Gmail等)を活用して卒業生ごとに評価確認の準備をする。 ■各就職先への卒業生就業状況調査の実施を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■医療機関で就業中の卒業生から、5月の卒業生キャリア報告会および懇談会において情報収集をした。 ■卒業生が来校時には、個々に就業状況や近況をヒアリングし、「卒業生来校記録」として残している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■5月に実施した卒業生キャリア報告会において、卒業生からの情報収集に努めた。 ■卒業生が来校した際に個々の就業状況や近況を確認・記録し、今後の学生指導に役立てている。 ■インターシップ先からの評価等を参考に実践的教育の充実に努める。 ■2月に実施した卒業生支援講座後の懇親会においても、卒業生からの情報収集が得られた。
			継続	医療マネジメント科	<ul style="list-style-type: none"> ■病院事務実習先、求人・就職先、専門領域で就業する卒業生、各委員会から情報収集をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■3～10月に求人・就職実績先、病院事務実習先から、5月に専門分野で就業する卒業生から、それぞれ情報収集している。 ■今後、各就職先への卒業生就業状況調査の実施を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■5月と11月に専門分野で就業する卒業生から情報収集した。 ■3～10月に求人・就職実績先、病院事務実習先から、それぞれ情報収集した。 ■2月に校友会主催卒業生支援講座により来校した卒業生から情報収集した。 ■適宜来校する卒業生から情報収集している。 ■卒業生就業状況調査については、今後、キャリアサポートセンターとの連携による実施を検討する。
			継続	診療情報管理専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■管理士実習先、求人・就職先、専門領域で就業する卒業生、各委員会から情報収集をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■3～10月に求人・就職実績先、診療情報管理士実習先から、5月に専門分野で就業する卒業生から、それぞれ情報収集している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■5月と11月に専門分野で就業する卒業生から情報収集した。 ■3～10月に求人・就職実績先、診療情報管理士実習先から、それぞれ情報収集した。 ■2月に校友会主催卒業生支援講座により来校した卒業生から情報収集した。 ■適宜来校する卒業生から情報収集している。 ■卒業生就業状況調査については、今後、キャリアサポートセンターとの連携による実施を検討する。
			継続	医師事務技術専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■各就職先への卒業生就業状況調査の実施を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■医療機関で就業中の卒業生から、5月の卒業生キャリア報告会および懇談会において情報収集をした。 ■卒業生が来校時には、個々に就業状況や近況をヒアリングし、「卒業生来校記録」として残している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■医療機関で就業中の卒業生から、5月の卒業生キャリア報告会および懇談会において情報収集をした。 ■卒業生が来校した時には、個々に就業状況や近況をヒアリングし、「卒業生来校記録」として残している。
			継続	くすり・調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■2019年6月ころに、ホームカミングデーを開催して、卒業後の就職状況について、聞き取り、コメントなどを全員で聞いたり、またほかの卒業生からのアドバイスを受けてたりして、相互の情報交換をする。また、その結果を個人名は記述せず、全体をまとめた資料を作成して、就職先へ送付してフィードバックすることなどにより、卒業生の継続的な勤務の維持に役立てていく予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ■6月にホームカミングデーを実施した。情報交換を行い、それぞれの職場での悩みや喜びなどを共有することができ、実施の効果があった。特に問題点はなく、企業へのフィードバックは実施しなかった。来季も実施を計画している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■本年度初めての実施であったが、卒業生同志の情報交換で、お互いの悩みなどの解決に役立っている。また教師側として、卒業生の企業内の勤務状況や人間関係などの状況把握にも役立っている。来期も同じような時期に実施を計画している。
			継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■卒業生支援講座以外で、実習先で就職している卒業生から情報収集をし、授業や介護実習に反映していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ■卒業生が来校した際や、実習先から得た情報は適宜、教員間で共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■引き続き、卒業生が来校の際は、情報収集し授業や介護実習に反映していく。

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	■年度末点検※3
			継続	鍼灸医療科	■鍼灸師像として、広い視野を持った人間力が就職先ではもたれられており、学びの場として、「臨床実習Ⅱ」では外部臨床施設を取り入れており、さらに拡大を図る。 ■卒業生支援講座や学科交流イベントの機会を通じて、卒業生からのヒアリングの場としている。	■臨床実習先として卒業生の就職先等の協力を得ており、十分な意見交換をおこない議事録を作成している。 ■交流イベント、卒業生支援講座は実施計画は予定なし。	■外部臨床実習では様々な治療法の手法や治療法を学ぶことで、キャリアデザインに繋がっている。実習先より、学生個々に具体的な評価を頂き、学生自身の将来の目標が明確になっている。
			継続	看護科	■ホームカミングdayを有効活用して、卒業生の声を拾っていく。ホームカミングday は定着してきているので、2019年度以降も実施の予定。	■7月に実施した。今後も1回/年を計画的に進める。	■恒例行事として定着した。
			継続	CSC	■年度末にかけて、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を行っている。 ■2015年度生のGメールでの調査を昨年度末に実施した。調査方法の検討やGメールの卒業後の使用法についても周知していく。	■実習先への訪問や就職面接会時に、医療機関等の評価の確認を行った。	■実習先への訪問や就職面接会時に、医療機関等の評価の確認を行った。今後年度末にかけて、内定先を訪問し、評価の確認を実施する。
			継続	CSC	■年度末にかけて、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を行っている。 ■2015年度生のGメールでの調査を昨年度末に実施した。今後調査方法の検討やGメールの卒業後の使用法についても周知していく必要がある。	■実習先への訪問や就職面接会時に、医療機関等の評価の確認を行った。 ■卒業生への調査方法についてはGメールも含めて検討しなければならないが、まだ行っていない。	■実習先への訪問や就職面接会時に、医療機関等の評価の確認を行った。今後年度末にかけて、内定先を訪問し、評価の確認を実施する。 ■卒業生への調査方法についてはGメールも含めて検討しなければならないが、まだ行っていない。年度末にかけて、検討していく。
5 学生支援	1. 就職等進路	○学生の多くは、学校求人により就職活動を行っていることから、引き続き学生の希望に基づく求人先の確保・開拓に努めてほしい。 ○進路指導協議会を通じて、各学科とキャリアサポートセンターの連携を推進し、社会状況の変化に迅速に対応した学生への就職指導・活動支援を引き続き進めてほしい。 ○キャリアサポートセンター担当職員の対応力は学生の就職指導・活動支援に直接かわるものであることから、引き続き担当職員のスキルアップを進めてほしい。	継続	CSC	■2018年度、特に医事系において大学病院への正職員採用や国立病院、日赤への採用といった大規模病院への採用が大幅に増えた。2018年度の実績ある病院と連携し、2019年度への採用へ繋げていく。 ■2018年度、進路指導協議会と連携し、キャリアサポートプログラムの再編を進めてきた。2019年度は、この改編の結果を検証していく。 ■担当職員の資格取得、研修への参加を積極的に行っている。	■今年度も実績ある病院と連携し、求人および採用をいただくことができた。 ■今年度も進路指導協議会と連携し、病院実習やインターンシップといった重要な課題について、改編を目指している。	■今年度も実績ある病院と連携し、求人および採用をいただくことができた。また特に今年度、国立病院への就職内定者を大幅に増やすことができた。 ■今年度も進路指導協議会と連携し、病院実習やインターンシップといった重要な課題について、改編を行い、病院実習については、病院側からの要望や就活の早期化対策として、1年次の春に一部実施。またインターンシップについても、様々な辞退対策を取り、その成果が出ている。
			継続	進路指導協議会	■各学科と連携し、継続的に、キャリアサポートプログラムや「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」を見直し、社会の変化や学生の状況に合わせ速やかに対応する。	■今年度も各学科、キャリアサポートセンターと連携し、病院実習やインターンシップといった重要な課題について、改編を目指している。	■今年度も各学科、キャリアサポートセンターと連携し、病院実習やインターンシップといった重要な課題について、改編を行い、病院実習については、病院側からの要望や就活の早期化対策として、1年次の春に一部実施。またインターンシップについても、様々な辞退対策を取り、その成果が出ている。
			継続	教務委員会	■教務委員会では共通基礎学力テストの実施、分析、報告までを担当する。経年変化、入学後の成績との相関、学科毎の特徴などに着目した分析を継続する。就職活動に活かすために必要なデータ抽出の希望があれば対応する。活用方法についてはキャリアサポートセンター、進路指導協議会、および各学科での課題と認識している。	■教職員全体会において、全教職員に対して共通基礎学力テスト分析結果を報告した。今年度も経年変化と、共通基礎学力テストと入学後の成績評価との相関、学科毎の特徴などに着目して分析した。また、退学者と全体との学力差を入試区分別に調査し、分析を行った。	■中間点検で報告のとおり、教務委員会では、共通基礎学力テストの実施、分析、報告までを担当し、今年度も経年変化、入学後の成績との相関、学科毎の特徴及び傾向、入試区分別入学者の成績傾向、退学者の成績傾向などに着目した分析を行った。
			継続	進路指導協議会	■共通基礎学力テストの結果を踏まえ、各学科と連携し、学習指導や就職活動支援に役立てる。	■共通基礎学力テストの結果の活用については、まだ話し合いができていない。	■共通基礎学力テストの結果の活用については、まだ話し合いができていない。年度末にかけて検討していく。
	2. 中途退学への対応	○入試区分や入学動機の強弱、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、記録の整理、分析をしっかりと行い、情報共有の仕組みを積極的、効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい。	継続	学科長会議	■全学科の学籍異動等・学生数の動向を把握・情報共有することにより、退学防止対策策定の一助とする。 ■学生委員会からの報告をベースとして、退学防止対策を検討する機会とする。	■全学科の学籍異動等・学生数の動向を把握・情報共有することにより、退学防止対策策定の一助としている。 ■必要に応じて、学科長会議から派生して教職員全体会・校務運営会議等により、より詳細に情報共有、現状把握・分析を行なう。	■全学科の学籍異動等・学生数の動向を把握・情報共有することにより、退学防止対策策定の一助とした。また必要に応じて、教職員全体会・校務運営会議等により、より詳細に情報共有、現状把握・分析を行なった。 ■この体制について、次年度も継続する予定である。

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
			継続	学生委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■退学防止調査票を前期2回、後期2回の4回、担任に提出してもらい、退学の予兆を早期に察知し、それを学科長にフィードバックし、退学抑制を図る。 ■hyper-QUの結果と退学との関係について、分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■退学防止調査票を前期2回、担任に提出してもらった。現在分析中で、それを11月の学科長にフィードバックし、退学抑制を図る。 ■hyper-QUは実施済み。これから結果と退学との関係について、分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■退学防止調査票を前期2回、後期1回担任に提出してもらった。現在4回目を収集中。3回分は収集したデータの分析をし、学科長会議に報告済み。2月に1年生の担任の意見交換会を実施した。学生の状況、対応方法等の事例の共有、今後の課題についてまとめた。 ■hyper-QUは実施済み。結果と退学との関係について分析した。
		○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると思われることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。	継続	広報室	<ul style="list-style-type: none"> ■次年度も引き続き、オープンキャンパスで個別相談等を通じて十分な説明を心がけ、ミスマッチのない学校選択に結びつけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ■オープンキャンパス参加者対応においては丁寧かつ適切なコミュニケーションを行っている。個別相談では参加者が知りたい情報の提供をより心掛け、申し込みが必要な参加者については広報室内で共有し対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■中間点検時と同様に、個別相談での十分な説明を心がけており、申し込みが必要な参加者についても共有して対応した。
			継続	字幕制作・速記者養成科	<ul style="list-style-type: none"> ■オープンキャンパス等の機会においては職業理解の促進を前提として説明を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■オープンキャンパス時に、機会があれば職業理解を中心とした説明を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■オープンキャンパスにおいては職業・業界理解の促進を重点に据え、説明を行った。
			継続	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■アドミッションポリシーをはじめ、学びや卒業時点までの目標を説明し、理解を得る。 ■カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを明確に伝え、入学後だけでなく卒業後の自身をイメージできるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■オープンキャンパスにおいて、学科のポリシーを提示し説明している。懇談においても入学後の学生生活が具体的にイメージできるような対応を心がけ、ミスマッチの防止に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■オープンキャンパスにおいて、学科のポリシーを提示し説明している。また懇談においては入学後の学生生活が具体的にイメージできるような対応を心がけ、ミスマッチの防止に努めている。
			継続	医療マネジメント科	<ul style="list-style-type: none"> ■学科紹介、説明会、懇談においては、改善させながら引き続き、学科全体についてのみならず、できるだけ学科の実像・実態を分かりやすく伝えて、その上で入学を検討してもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ■特にオープンキャンパスにおける学科紹介、説明会、懇談においては、学科紹介だけでなく、できるだけ学科の実像や卒業後の進路等も含めて分かりやすく伝えて、その上で入学を検討してもらい、ミスマッチの防止を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■特にオープンキャンパスにおける学科紹介・説明会・懇談においては、学科紹介だけでなく、できるだけ学科の実像や卒業後の進路等も含めて分かりやすく伝えて、その上で入学を検討してもらい、ミスマッチの防止を図った。 ■退学者数・退学率は、前年度よりも減少した。
			継続	診療情報管理専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■医療マネジメント科説明・紹介の一環として、同時期に同様のやり方で実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■医療マネジメント科説明・紹介の一環として、同時期に同様の考え方・やり方で実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■医療マネジメント科説明・紹介の一環として、同時期に同様の考え方・やり方で実施した。
			継続	医師事務技術専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■医師事務作業補助者として活躍するイメージを思い描かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■在校生に対しては、授業や卒業生キャリア報告会、病院見学、病院事務実習などを通し、医師事務作業補助者の理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■在校生に対しては、授業や卒業生キャリア報告会、病院見学、病院事務実習などを通し、医師事務作業補助者の理解を深めている。
			継続	くすり・調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■オープンキャンパスに参加した生徒には、2回以上の参加や授業見学、他の学校、他の学科への見学などを勧めて、ミスマッチがないようにアドバイスをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■今後も、オープンキャンパス参加者に丁寧に学科の特性を伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ■本年度もオープンキャンパス参加者には、学科の特徴を丁寧に説明し、2回以上オープンキャンパスに参加するようにアドバイスすることで自分が適した学科であることの確認を行った。今後も入学を決める前に、ミスマッチが無いよう、丁寧な説明や複数回のオープンキャンパス参加提案を継続していく。
			継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■中途退学防止に向け、入学前のオープンキャンパスでの説明が重要となる。入学動機が維持できるよう入学前からのフォローをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ■オープンキャンパスでは入学後にミスマッチが生じないよう入学予定者の状況を把握し、個々に応じた説明をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■今後も多様な学生に対応できるよう個々に合った方法で退学防止に努めていく。
			継続	鍼灸医療科	<ul style="list-style-type: none"> ■募集停止のため、該当しない。 		
			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■オープンキャンパスの時期、内容については随時「入試委員会看護科部会」にて話し合い、決定事項を学科内におろして協力を求めた。入学後の生活のイメージ化が図れる取り組みが更に必要と考えるので、2019年度は視聴覚媒体の作成に着手する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■視聴覚媒体の作成を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■学科説明の中に3つのポリシーを加え、パワーポイントを作成して、内容的の統一感を図った。

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
4. 学生生活 (1) 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	5. 保護者との連携	○緊急時における経済的支援策など、公的な制度と合わせた本校独自の制度については、国による新たな支援制度の進捗に合わせて、本校でも可能な支援策を検討することに期待したい。	継続	校長	■給付型奨学金など、公的に整備される予定の制度と合わせて、在校生に対する本校独自の経済的支援策等を、引き続き具体的に検討する。	■国による新たな支援制度の対象校となるための準備を進めるとともに、専攻科への内部進学者向けの給付型奨学金制度を新設した。	■来年度から始まる、国による新たな支援制度の対象校となることのできた。専攻科への内部進学者向けの給付型奨学金制度を新設したが、今回は希望者が出なかった。
			継続	校長	■本年度も4月の入学式終了後の会場で、保護者に対して学校説明を行い、学生指導への協力を呼び掛けている。また、昨年度に一部の学科で開催された入学後の保護者会については、各学科の個別の事情を考慮し、学科の課題として具体的に検討してもらっている。	■保護者会については、一部の学科で新たな試みとして実施が計画されている。	■保護者会については、医療秘書科、介護福祉科など、一部の学科で実施され、参加者は少なかつたものの、保護者との連携の場として機能した。
			継続	字幕制作・速記者養成科	■保護者とは連絡や面談等、必要に応じて個別対応により連携する。	■保護者とは必要に応じ連携を図る。	■保護者との連携を必要とする事案は発生していない。
			継続	医療秘書科	■1年生対象保護者会を開催する。 ■保護者への情報提供の内容や方法を検討する。	■10月に1年生の保護者を対象とした保護者会を開催し、学生を取り巻く環境の変化について説明し、理解を得る予定である。 ■必要があれば適宜、保護者との面談を実施している。	■1年生の保護者を対象とした保護者会を10月に開催した。個人面談のニーズの高さを実感したため、内容を再検討しながら今後も続ける予定である。
			継続	医療マネジメント科	■オープンキャンパスでの保護者説明会において、学科の状況を伝えて理解を得るようにする。 ■問題がある学生については、教職員間で連携した上で、速やかに保護者に連絡して対処し、必要に応じて保護者とも面談する。	■オープンキャンパスでの保護者説明会において、学科の状況を伝えて理解を得るようにしている。 ■問題がある学生が発生した際は、教職員間で連携した上で、速やかに保護者に連絡して対処し、必要に応じて保護者とも面談している。	■オープンキャンパスでの保護者説明会において、学科の状況を伝えて理解を得るようにした。 ■問題がある学生が発生した際は、教職員間で連携した上で、速やかに保護者に連絡して対処し、必要に応じて保護者とも面談することにより成果をあげた。
			継続	診療情報管理専攻科	■問題がある学生は稀少であるが、仮に発生した際は速やかに保護者に連絡して対処し、必要に応じて保護者とも面談する。	■問題がある学生が発生した際は、速やかに保護者に連絡して対処し、必要に応じて保護者とも面談する体制を整えている。	■問題がある学生が発生した際は、速やかに保護者に連絡して対処し、必要に応じて保護者とも面談する体制を整えた。 ■今年度については、保護者と面談するまでの状況には至らなかった。
			継続	医師事務技術専攻科	■保護者との適切な関わり方について検討する。	■必要があれば適宜、保護者との面談を実施する予定である。	■保護者との面談が必要な状況は発生しなかった。
			継続	くすり・調剤事務科	■学生との個人面談を頻回に行うことで、早期の問題点を解決している。しかし、どうしても保護者との話し合いが必要となった場合は、個別に保護者へ連絡を取り、話し合いをすることで、解決を図っている。今後もこの方法を継続していく。	■問題があるたびに、個別に保護者とは連絡をとりながら、学生対応をしてきた。今後も問題があることに、積極的に保護者と連絡を取っていく。	■問題あるごとに、積極的に保護者とも連絡して対応している。今後もこの方式で継続していく。
			継続	介護福祉科	■引き続き、1、2年生合同保護者会を実施し、学校と家庭との連携を図る。また、希望者には個別面談を実施する。	■6月に1,2年生合同保護者会を実施した。保護者会は継続していく予定。	■保護者会以外でも適宜、面談は実施予定である。今後も保護者会・個別面談は継続していく。
			継続	鍼灸医療科	■在学生が入学する際、保護者もオリエンテーションにご参加いただき、学園生活の理解と協力を周知している。 ■学園祭を利用した保護者面談を継続する。特に3年生の保護者には受験資格要件を明確にし、受験までの流れを文書で示し周知している。	■保護者宛に前期成績表、模擬試験結果を送付済み。 ■学園祭に合わせて、保護者面談を準備中。	■後期成績および模擬試験の結果は保護者宛に送付済み。 ■12月に保護者との三者面談を実施した。
			継続	看護科	■各担任は保護者との連携を図っていく。社会人学生であっても、保護者の意見を確認し進路の決定に携わっていく。	■各担任はタイムリーに保護者との連携を図っている。引き続き、教員間で情報共有していく。	■各担任は個別面談を適宜行い、必要時は保護者と面談をしている。その際複数教員で対応に当たるようにしている。
					○保護者との連携は、学科ごとの検討だけでなく、学校全体としてのシステム作りも検討してほしい。	新規	校長

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
		○成績等の報告についても個人情報の保護をはじめとした必要な対策をとった上で、実施に向けた準備を進めることに引き続き期待したい。	継続	校長	■保護者への成績等の報告については、主に高校新卒の入学者を対象に、学科ごとに実施を検討することとしている。	■学生の成績表を保護者へ郵送し、学生の学習状況を保護者に通知する試みが、一部の学科で計画されている。	■学生の成績表を保護者へ郵送し、学生の学習状況を保護者に通知する試みが、一部の学科で実施された。
			継続	事務局長	■保護者への成績の報告については、リスクの低い送付方法とコストについて、引き続き実施に向けて検討を行う。また、保護者に向けた情報発信については、学科ごとに実施を検討する。	■在学生の保護者に宛てた成績送付は、医療秘書科1年生の保護者会案内とともに送付した。重要な個人情報を送るため簡易書留を利用したが、全体に送付するにはリスク・コストともに低い方法が課題である。 ■保護者への情報提供は、各学科で取り組んでいる。	■在学生の保護者に対する成績送付は、個人情報漏えいのリスクを考慮し、簡易書留で医療秘書科1年生の保護者宛てに行った。継続的に全学科が行うのであれば、低リスクでローコストな方法を引き続き検討したい。また、単に送付することを目的とするのではなく、家族の協力を得て、退学防止や学習意欲の向上に役立てるなどの工夫が必要である。
		○授業公開についても、教員研修としてだけでなく、子どもの勉強内容や学校の様子を保護者に見ていただくものと位置づけた取り組みとして行ってみることも引き続き検討してほしい。	継続	校長	■保護者会の実施と併せて、実施可能な学科については、開催することを検討したい。	■保護者会の実施等と併せ、開催を検討する。	■まだ実現には至っていないが、保護者会の実施等と併せての開催を、引き続き検討したい。
	6. 卒業生・社会人	○卒業後の相談とフォロー体制の充実、学校選択の重要な観点でもあることから、引き続き前向きな取り組みに期待したい。 ○キャリアアップを目指した転職への支援を行っていることを知らない卒業生も多いと思われるので、そのような情報も提供して、随時、学校に相談できるような受け皿を広げてほしい。 ○Gメール等を活用した、(卒業生の状況が把握できるような)ネットワーク作りを進めてほしい。また、ネットワーク作りだけでなく、卒業生に対するフォローの強化も進めてほしい。	継続	CSC	■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応している。2019年度は、より積極的に既卒者へのアプローチを行っていききたい。 ■ホームページを通じた卒業生への就職支援にも力を入れ、卒業生がより分かり易いものへ改善していききたい。 ■効率的にGメールを活用し、転職者への相談・あっせんを行っていききたい。	■既卒者の就(転)職希望者に今年度も積極的に対応している。 ■ホームページを通じた卒業生への就職支援は、現在検討中である。	■既卒者の就(転)職希望者に今年度も積極的に対応した。 ■ホームページを通じた卒業生への就職支援は、現在検討中である。 ■今年度もGメールを通じての転職相談等を行った。
○卒業生支援講座については、卒業生のニーズ把握に着眼点があると思われるので、引き続きGメールなどを使った調査やPR方法を工夫して参加者の増加を図ってほしい。 ○卒業生支援講座は、卒業生に対するリスクが足りない部分があると感じた。AO入試の入学前指導プログラムと同じように、学校全体で考えて取り組んでいただきたい。(30年度総評)	継続・新規	校長	■卒業生支援講座については、企画室が運営統括する仕組みに改め、卒業生の学びのニーズを把握し、社会人(既卒者)対象の学び直し教育のプレ講座との位置づけで、講座企画の具体化と受講者へのサービス向上を図りたい。	■卒業生向けの講座を複数回実施する予定で、校友会報等で告知している。今年度は、すでに廃止された学科の卒業生向けの講座も、学科同窓会を兼ねて開催することとしている。	■すでに廃止された学科の卒業生を対象とした講演と懇親会を12月に開催した。また、2月には診療報酬改定に関連した研修会と懇親会を、卒業生支援講座として実施した。		
	継続・新規	CSC	■卒業生支援講座の企画についても学校全体で取り組む。 ■運営の仕方も改善の余地があり、学校全体として見直していききたい。	■今年度、卒業生支援講座についてCSCとしても協力できる場所はしていきたい。	■今年度の卒業生支援講座について、診療報酬改定に関わるものであり、卒業生も多数出席することからCSCとしても準備や運営の部分で協力を行った。		
	継続・新規	教務委員会	■卒業生支援講座については、2019年度から企画室が中心となり進めるが、運営には引き続き協力する。	■教務委員会として運営に協力する機会はなかった。	■教務委員会として運営に協力する機会はなかった。		
	継続・新規	校友会事務局	■2018年度は卒業生支援講座の開催案内を校友会報で広報した。また、講座案内チラシを作成し、同封で送付した。支援講座に運営に当たっては講師料等の費用を校友会より助成した。校友会ホームページを3月に開設したため、2019年度の講座については、こちらも活用して広報していく。	■2019年度前半では、卒業生支援講座の企画を企画室が主導して行った。今回の支援講座は、隔年で実施している医療事務系講座に加え、さまざまな年代の方が参加できるようカルチャー系の講座を企画し、校友会報、専門学校・校友会のホームページにて告知するように進行している。	■2回の卒業生支援講座を開催し計画を達成した。第1回は11月の学園祭と同日に、旅に関するカルチャー講座を開催した。第2回については、2月に診療報酬改定に関する講座を開催した。2回とも講座終了後に懇親会を開催し卒業生、教職員との交流を深めた。講座の告知には、9月に発行した校友会報の他、校友会及び専門学校のホームページ、G-mailを利用した。		

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
6 教育環境	1. 施設・設備等	○本校の教育に積極的に生かす必要性からの学校内のWi-Fi(無線ネットワーク)設備、また、必要に応じたバリアフリーの目標などの検討が引き続きの課題である。	継続	事務局長	■授業での必要性や学生の要望を把握し、段階的に整備を進める。バリアフリー化は予算規模も大きくなるため、補助金の利用も考慮し入れ検討する。	■Wi-Fiについては、アンケート集計システムの導入に合わせ順次導入して行く。バリアフリー化は予算規模も大きくなるため、補助金や寄贈の可能性も探りつつ、必要性和次年度予算の状況により1月までに検討を行う。	■Wi-Fiについては、次年度より順次導入して行く。バリアフリー化は1階正面玄関を対象に、校友会からの寄贈を次年度の校友会役員会で検討してもらう。
			継続	CSC	■各学科と連携し、取り扱いたい。	■今年度は各学科と連携し、進路指導協議会においてインターンシップの開始時期を従来の10月から11月に変更した。今後インターンシップ専攻生の負担が少なくなるようなフォロー体制を作っていく。	■今年度は各学科と連携し、進路指導協議会においてインターンシップの開始時期を従来の10月から11月に変更するなど様々な辞退対策を取った。
			継続	医療秘書科	■月間報告書の記載内容を速やかに確認する。 ■登校日設定の頻度やメニューを再考する。 ■Gmailを利用したフォロー方法を検討する。	■インターンシップ開始時期を従来より1カ月遅くしたことにより、ひと月とはいえ後期授業を受けることができたことの影響は大きい。 ■CSCと連携し、インターンシップ専攻生のフォロー体制強化に努める。	■キャリアサポートセンターと連携し、インターンシップ専攻生のフォローに努めた。登校日には担当が面談を行い、その状況を共有することで、指導またはインターンシップ先への働きかけを行った。
	継続	医療マネジメント科	■キャリアサポートセンターとの連携を基本として、登校日、個別連絡・面談も活用して対応する。 ■月間報告書等を活用する。	■キャリアサポートセンターとの連携を基本として、登校日、個別連絡・面談も活用して対応する体制を整えている。 ■月間報告書等を活用する体制を整えている。	■キャリアサポートセンターとの連携を基本として、登校日、個別連絡・面談も活用して対応する体制を整えた。 ■月間報告書等を活用する体制を整えた。		
	3. 防災・安全管理(1)防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	○課題としている災害発生時の学内待機、近隣の被災者受け入れなどについては難しい面もあるが、引き続き近隣との連携をできることから整備を進めてほしい。 ○防災マニュアルには神田川が決壊した際の対応についても記すことが望まれる。	継続・新規	事務局長	■自治体の災害発生時の体制を把握し、本校生の安全を第一に、被災者の受け入れ体制を検討する。 ■水害の際の対応についても防災マニュアルに掲載する。	■現時点では、災害時の被災者受け入れ体制案は提案できていない。ケースバイケースの事案のため、概要のみまとめておきたい。 ■水害への対応は、現行の災害対策本部で扱うこととしたい。	■災害時の被災者受け入れ体制案はまとまっていない。 ■水害への対応は、駐車場の防潮板の修理を行い実用可能な状態にした。昨年10月の台風の際、川の氾濫は無かったが、防潮板は閉鎖した。
(2)学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	○感染症に関しては、学校保健安全法に基づき対応しているが、学内感染を予防するためにも、インフルエンザなどについては、引き続き所轄からの流行情報を的確、適切に発信して、周知、徹底を図ることが望まれる。 ○授業中の事故等に関する共通のマニュアルなどの整備が求められる。	継続	学務課長	■保健室だよりで早めにインフルエンザ予防についての情報を学生や教職員に提供していく。 ■アルコール消毒液や嘔吐物処理キットを校内に準備して、感染防止を図る。 ■事故対策マニュアルを作成するかどうかを検討するために、まずは考えられる事例を教職員から集める。	■保健室だよりの7月号より、2階に設置されたアルコール消毒液の使用についての案内を継続している。また、10月号よりインフルエンザ予防についての情報を掲載する予定である。 ■嘔吐物処理キットは、保健室に設置した。 ■考えられる事故事例については情報を集められていない。	■2019年度も看護科の学生、及び看護科病院実習教員に対して予防接種を12月に実施した。 ■インフルエンザの予防対策の啓蒙活動として、今年度も保健室だよりの10月号より予防接種についての内容だけでなく、インフルエンザについての情報も記載した。 ■嘔吐物の処理後の清掃について、保健室の先生から本校の清掃担当者に12月に説明した。 ■11月よりアルコール消毒液を1階にも設置し、1階と2階で消毒が出来るようにした。 ■1月より各トイレにペーパータオルを設置し、ノロウイルスや新型コロナウイルスの予防対策を実施した。 ■情報セキュリティ事故については1月の個人情報保護・情報セキュリティ委員会で話し合われたが、授業中の事故事例については情報を集められていない。	
7 学生の募集と受入れ	1. 学生募集活動	○本校ではホームページ上で積極的に情報公開を進めているが、高校における専門学校の理解が必ずしも進んでいないのが現状と言われている。より理解を深めるためには、例えば就職であれば就職データだけでなく、雇用形態、卒業生の様子、企業の評価などの情報提供に向けた具体的な検討が引き続き望まれる。	継続	広報室	■くすり・調剤事務科の職業紹介を中心にしたリーフレットを制作し、本年度の高校訪問時に高校教員への説明資料としても活用を図っていく。	■高校訪問時には、くすり・調剤事務科だけでなく学科や就職などの特徴説明や、卒業生状況の情報提供を行い、信頼関係の構築を目指す。 ■2021年度生募集については、進路選択早期化に対応するため、オープンキャンパスDMなどは通常日程でも高2生にも送付するようにして来学を促し、早めに困り込みを行っていく。	■中間点検同様、高校訪問時には学科や就職など本校の特徴説明や、卒業生状況の情報提供を行った。 ■2021年度生募集については、進路選択早期化に対応するため、オープンキャンパスDMなどは高2生にも送付し、早めの困り込みを行っている。
			継続	募集広報協議会	■2020年度生募集活動の進捗を確認しつつ、2021年度生募集活動計画を作成し早めの準備を心がける。 ■高校へは、本校卒業生の活躍フィールド等を明確に示す。	■前期に募集広報協議会を数回行ったが本件は議題に挙がっていない。中間点検および年度末点検については上記広報室と同じとする。	■募集広報協議会では本件は議題に挙がっていない。年度末点検については上記広報室と同じとする。

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	■中間点検 ※2	■年度末点検※3
		○コンセプトノートの言葉は数値より心に響くように感じる。上手く活用することが望まれる。	新規	広報室	■コンセプトとなっている“変わり続ける社会からずっと必要とされるあなたを”は、入学案内書、各種媒体誌でも使用している。2019年度についても継続して活用していく。	■コンセプトは変わらず使い続けイメージの統一を図っていたが、次の展開についても検討していきたい。 ■本校の強みについて改めて整理するとともに適切に情報を発信していく。	■継続してコンセプトを使い、イメージの統一を図っている。 ■本校の強みを改めて整理し、短めのワードで分かりやすく情報を発信した。
			新規	募集広報協議会	■入学対象者への情報提供がそれぞれの学科情報だけに偏重するのではなく、学校コンセプトノート等のツールを使って全体のことと同時に理解されるよう工夫する。	■前期に募集広報協議会を数回行ったが本件は議題に挙がっていない。中間点検および年度末点検については上記広報室と同じとする。	■募集広報協議会では本件は議題に挙がっていない。年度末点検については上記広報室と同じとする。
		○高校の先生は医療事務の仕事への認識があまりないのではと感じることがある。仕事内容をもう少しアピールしてほしい。 ○医療マネジメント科のようにきちんと説明しないと分かりにくいと思われる学科もあるので、高校の先生や保護者に向けた情報提供をもっと工夫してほしい。 ○18歳人口の減少や医療事務のAI化の見通しといった課題を乗り越え、医療秘書科の入学者が再び増えるように努力してほしい。	継続・新規	広報室	■高校教員には、独自訪問の際に医療事務の社会的ニーズを、医師事務作業補助者、診療情報管理士の話を中心にアピールしている。また自らが自信を持って説明ができるよう、勉強会に参加するなど、知識の獲得に努めており、2019年度についても積極的に取り組む。	■医師事務・管理士をさらに広くPRするため、2019年度には本校HPに医師事務・管理士の紹介ページを作成する。 ■高校教員に対しては、高校訪問や教員説明会などで積極的に説明して理解を促し認知を高めていく。	■医師事務・管理士をさらに広くPRするため、HPに医師事務・管理士の紹介ページを新たに制作して公開した。 ■高校教員に対しては、理解を促し認知を高めていくために高校訪問で積極的に説明した。
			継続・新規	募集広報協議会	■専門学校で学習する意義と本校卒業後の活躍フィールド等を明確にし、情報提供の仕方を工夫する。	■前期に募集広報協議会を数回行ったが本件は議題に挙がっていない。中間点検および年度末点検については上記広報室と同じとする。	■募集広報協議会では本件は議題に挙がっていない。年度末点検については上記広報室と同じとする。
		○医師事務技術専攻科の募集活動は、医療現場において本校の3年間の教育内容が必要であることを上手く説明することが望まれる。	新規	医療秘書科	■1年間の学習成果の違いを明確に伝える。 ■就職後の業務負担に及ぼす可能性を伝える。	■2019年度生に対しては、保護者会でも案内する。 ■校友会報の発送に合わせ、卒業生向けに専攻科の案内を送付し学び直しの情報提供をおこなった。 ■姉妹校の学生に対して職種紹介の場を設けていただき、7月と10月に訪問する。医師事務作業補助者の職種紹介と専攻科カリキュラム紹介を予定している。	■30年度生に対しては、2年担任や医師事務技術専攻科関連教科の担当教員からも情報提供と進学の意思確認を継続した。 ■2019年度生に対しては医師事務作業補助者の職種としての将来性を、保護者会においても説明した。 ■埼玉女子短大へは2度にわたり説明会を実施した。
			新規	医療マネジメント科	■外部に対する募集活動は、入学相談室と連携して実施する。 ■専攻科募集については、診療情報管理専攻科をメインとしながら、医師事務技術専攻科を並立させたやり方を改めて検討する。	■オープンキャンパスにおける学科紹介、説明会、懇談において紹介している。 ■診療情報管理専攻科を中心としているが、医師事務技術専攻科については、関連する分野の授業において担当教員から紹介して、進学促進の一助としている。	■オープンキャンパスにおける学科紹介・説明会・懇談において紹介はしてきた。
			新規	広報室	■高校ガイダンスでは医師事務作業補助業務の内容を説明し、高校生の関心を引けていることがオープンキャンパス参加票のチェック項目からもうかがえる。今後はオープンキャンパスでの学科説明の中で重点的に取り扱えるよう学科との調整を行っていく。 ■昨年11月に開催された医師事務作業補助者に関する勉強会で得た見識をもとに、本年度の高校ガイダンスや高校独自訪問において自信を持った説明を展開していく。	■高校ガイダンスでは、医療事務系の分野説明においては医師事務の説明も併せて行っており、仕事のキャリアアップや将来性の高さを併せて認識させている。	■高校ガイダンスでは、医療事務系分野説明においては医師事務の説明も併せて行っており、医療機関のニーズや将来性の高さを併せて認識させた。
		○字幕制作・速記者養成科については、高等学校の関係者にカリキュラムや就職について具体的に説明して、学科のPRをしっかりとやっていただきたい。(30年度総評) ○字幕制作・速記者養成科の募集・広報活動は、1つの学校だけで広報することは難しいため、業界や速記協会等と連携したほうがよい。また、高校だけでなく大学にも訪問するなど、広報活動を充実、強化していただきたい。	新規	広報室	■1年制学科に対する高校教員の反応は厳しいものがあるが、継続して広報していきたい。2020年度生よりキャプションライター養成科と名称を変更し、日本速記協会、業界の協力を得て募集を推進していく。	■Web広告やリーフレット制作、高校宛DMの発送など独自アプローチを行っている。	■字幕制作・速記者養成科について、Webのリスティング広告を展開したほか、リーフレットを制作して全国の商業分野のある高校宛に発送した。
			新規	募集広報協議会	■大学生や社会人からの入学生増加策を考える。 ■卒業後の活躍フィールド等を明確にする。	■前期に募集広報協議会を数回行ったが本件は議題に挙がっていない。中間点検および年度末点検については上記広報室と同じとする。	■募集広報協議会では本件は議題に挙がっていない。年度末点検については上記広報室と同じとする。
			○新学事システムと募集システムのデータを上手く共有して募集活動に反映させてほしい。	新規	広報室	■データの共有は難しい。改善策は現状ではない。	■在校生データなどを学事システムより抽出し高校教員への報告等に活用している。

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	■年度末点検※3		
		○入学案内書と募集要項が複数冊あり、生徒や受験生は見るのが面倒になると思われる。募集に影響しかねないので、改善することが望まれる。	新規	広報室	■2020年度生の入学案内書、募集要項については、鍼灸医療科が募集停止となったため制作が不要となった。キャプションライター養成科の募集要項については、合冊で編集し改善を図った。	■2020年度生の入学案内書、募集要項については、鍼灸医療科が募集停止となったため制作が不要となった。キャプションライター養成科の募集要項については、合冊で編集し改善を図った。	■中間点検同様、2020年度生の入学案内書、募集要項については、鍼灸医療科が募集停止となったため制作が不要となった。キャプションライター養成科の募集要項については、合冊で編集し改善を図った。		
		○教育研究誌を募集活動にも利用できる方法を検討してほしい。	新規	広報室	■教育研究誌の発行に長年取り組んでいることを認知してもらえよう、案内書やホームページ等での紹介を検討し、反映していく。	■教員の研究教育活動を公表している教育研究誌を募集活動に活用できるか検討する。 ■研究教育活動を含めた教員の諸活動の情報を提供いただく体制を整備しホームページ等で発信したい。	■教育研究誌の募集活動への活用は検討したが、行っていない。		
			新規	募集広報協議会	■学生との関わり以外での教員の諸活動を紹介することも含め、本校を理解してもらおう方法を検討する。	■前期に募集広報協議会を数回行ったが本件は議題に挙がっていない。中間点検および年度末点検については上記広報室と同じとする。	■募集広報協議会では本件は議題に挙がっていない。年度末点検については上記広報室と同じとする。		
		○在校生のコンテストや研究発表における受賞は、本校教育の成果を表すものであることから、積極的にアピールすることを引き続き進めてほしい。	継続	広報室	■学科と連携して継続して実施する。	■学科と連携しホームページ等で発信していく。	■学科と連携しホームページ等で発信した。		
		○募集に関する意見は、学校関係者評価委員会の報告書を待っていると遅れてしまうので、再来年の募集に反映できる意見は校長判断として早くから現場に落とし込んでいただきたい。(30年度総評)	新規	校長	■募集に関する意見と対策については、広報室と各学科、また募集広報協議会や教職員全体会等において随時、喫緊のテーマとして採り上げ、なるべく早く対応することとしている。	■募集に関する意見と対策については、広報室・企画室と各学科、また校務運営会議・募集広報協議会・教職員全体会等において随時、喫緊のテーマとして採り上げ、対応を図っている。	■専門課程昼間部の2021年度生募集に関する対策については、広報室・企画室と各学科、また校務運営会議・募集広報協議会・教職員全体会等において随時、喫緊のテーマとして採り上げ、学科の再編を含む募集計画を策定した。		
		○募集広報協議会は、3年目である平成30年度は校長室主導となるようだが、上手く機能するように各関係者が努力してほしい。	新規	校長	■校長室主導により、実りある協議の場として少しずつ機能し始めたため、2019年度は法人本部からのオブザーバーにも参加してもらい、広報室中心の会の運営に戻した。	■企画室が協力して広報室が運営する、実りある協議の場として機能し始めている。	■今年度は、企画室が協力して広報室が運営するかたちに改めた。主に医療事務系学科が対象で実施回数は少なかったものの、実りある協議の場としてようやく定着し始めた。		
			新規	広報室	■本年度より広報室が主導するが、企画室とも調整を行いながら進捗していく。協議会では各学科の特長や情報を共有し、一体的な募集広報活動が実施できるよう運営していく。	■4月には医事系学科の昨年度募集分析報告、8月にはキャプションライター養成科募集促進をテーマに協議会を行った。 ■出願がスタートしたので媒体効果などを分析するのはこれからとなる。それを踏まえてOC参加や出願の動向を振り返りながら課題を抽出し、本校の特徴や魅力の再確認を行うことを予定している。	■中間点検同様、医事系学科の昨年度募集分析報告や、キャプションライター養成科募集促進をテーマに協議会を行った。 ■出願期間終了後に媒体効果やOC参加状況、出願動向などをデータで分析し、課題を明らかにして改善作業を行うことを予定している。		
			新規	募集広報協議会	■2020年度生募集活動の進捗を確認しつつ、2021年度生募集活動計画を作成し早めの準備を心がける。	■前期に募集広報協議会を数回行った。	■募集広報協議会を数回行った。		
		9 法令等の遵守	1. 関連法令、設置基準等の遵守	○(少年法改正に関して)入学案内書や学生生活ガイドの見直しを検討していただきたい。(30年度総評)	新規	事務局長	■法令遵守や犯罪に巻きこまれないための注意喚起は、入学時から指導を行っている。記載については制作物により検討を行う。	■必要と思われる注意事項は学生生活ガイドに記載し、オリエンテーションで伝えている。	■法令遵守や犯罪に巻きこまれないための注意喚起、特に個人情報の扱いやSNSの利用については、入学時から指導を行っている。
			2. 個人情報保護	○学生には、特にSNSについて、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。	継続	事務局長	■引き続き情報収集に努め、適宜、新しい問題例への対応を周知する。	■年度途中での情報提供は行っていないが、引き続き情報収集に努め、適宜、新しい手法への対応を周知する。	■個人情報の扱いやSNSの利用についての注意点は、入学時から指導を行っている。
			継続	学生委員会	■1か月に1回以上のペースで学生委員会メールを送信する。内容は保健室・学生相談コーナーの案内、イベントの案内、ボランティア募集について、SNSの利用上の注意について、個人情報に保護に関する注意喚起を予定している。	■学生委員会メールをこれまでに10号まで送信しており、SNS利用上の注意事項についても触れている。	■学生委員会メールをこれまでに23号まで送信しており、その中でSNS利用上の注意事項についても触れている。		
	3. 学校評価	○学校からの報告、説明に対する評価だけでなく、委員からの意見、提案に基づく意見交換を行う時間を増やすことが望まれる。	継続	自己点検委員会	■2018年度に引き続き、時間を増やせるように各回の内容を再検討する。	■2019年度学校関係者評価委員会でも時間を設定した。引き続き設定していく。	■2019年度の学校関係者評価委員会では、各回で時間を設定した。2020年度も引き続き設定していく予定である。		
10 社会貢献・地域貢献	1. 社会貢献・地域貢献	○必要な規定や方針等を整備した上で、企業等と連携した教育プログラムの開発にも引き続き期待したい。	継続	校長	■字幕制作・速記者養成科等の一部の学科では、既に企業等と連携した教育プログラムの開発に着手しており、専門課程以外の新規の教育事業においても、積極的に企業等と連携した教育プログラムの開発を推し進めることにしている。	■一部の学科では、既に企業等と連携した教育プログラムの実施に着手している。	■一部の学科では、既に企業等と連携した教育プログラムの実施に着手しており、この流れを拡大していきたい。また、デュアルシステムの導入なども、検討したい。		

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
			継続	事務局長	■字幕、登録販売、調剤等の分野について内部・外部との連携により、講座を開発・運営するとともに、日本語教育分野においても外部との連携により、新たな教育プログラムを開発していく予定である。	■2019年度は実施完了。年内に2020年度の講座について内容・日程等の検討を行う予定。	■既に企業等と連携した教育プログラムの実施に一部で着手しており、この拡大を目指したい。また、日本語学校との連携による留学生を対象とした教育プログラムを検討したい。
		○地域交流や生涯学習においては、参加者や受講者に魅力ある講座の開発や効果的な広報手段の検討を、社会問題への取り組みにおいては、引き続き意識的な取り組みの推進が期待される。	新規	校長	■既存の専門課程の学科教育とは別に、夜間・休日の校舎を活用した講座の開発において、既に具体的な検討に着手している。	■小規模ながら、夜間・休日の校舎を活用した講座の実施にすでに着手しており、併せて効果的な広報手段についても具体的に検討している。	■夜間・休日の校舎を活用した講座の実施に着手した。魅力的な講座の企画、受講者を増やすための効果的な広報手段等についてさらに検討し、教育事業としての拡大を図りたい。
			新規	事務局長	■2019年度豊島区オープンスクールの講座について、介護・鍼灸の分野で提案があり、2月に申請を行った。	■豊島区オープンスクール以外に、実務的な講座や趣味・教養的な講座を開発し、受講生募集を行っている。	■実務的な講座や趣味・教養的な講座を開発し受講生募集を行った。豊島区オープンスクールも次年度の講座を検討したい。
	2. ボランティア活動	○学業が忙しい中で、ボランティア活動の奨励、支援には難しさはあるが、人材育成の視点からも有意義なものであり、さらに仕掛けを工夫して、引き続き進めてほしい。 ○東京都専修学校各種学校協会のホームページへの情報掲載を引き続き行ってほしい。	継続・新規	学生委員会	■学生委員会メールを活用して、随時もしくは少なくとも2か月に1回程度を目安に、ボランティア募集情報を送信する。 ■東専各が公開しているホームページ「ボラ活」にて、他校と共に本校のボランティア活動の様子を紹介する。年に1回更新する。	■ボランティア募集メールを1か月に1回程度送信している。 ■「ボラ活」のページの更新はしていない。ボランティア活動があった場合に、更新する予定。	■ボランティア募集メールを1か月に1回程度送信している。 ■「ボラ活」のページの更新はしていない。ボランティア活動があった場合に、更新する予定である。